箱崎環境対策協議会・機関紙『はこざき新聞』刊

東京・日本橋

偲ぶ、箱崎町

昭和十一年〜昭和十五年頃

まえがき

『はこざき新聞』では、箱崎地区の歴史や、ここに住むチョット特別な人などを度々ご紹介してきました。

そんな活動の中で、以前箱崎二丁目に住んでいた弓削多稔さん（旧姓神山）が、昔を偲んで画いた一枚の絵地図にめぐり会ったのです。

その絵地図は、昭和十一年頃から昭和十五年頃にかけての、北新堀町と箱崎一丁目・二丁目・三丁目の絵地図で、家々には懐かしい名前がいっぱい書き込まれてありました。

弓削多さんは、この絵地図をかなり以前から、箱崎の友人等の協力をもらい、事細かく添削して書き直してきたそうです。そこで、この絵地図に大きく触発された『はこざき新聞』では、箱崎四丁目を含めて、地図の完成に協力する事になりました。

出来るだけ精確に、そして楽しい地図を作成しようと作業に入ってから一年の月日を費やしました。

かくして、多くの皆様のご協力を得て、ここに『昔の箱崎』の地図が完成いたしました。そして思い出話やら箱崎の歴史やら箱崎にまつわる故事来歴なども収録しました。

今、箱崎の住人の八十パーセントがマンション住まいと言われております。昔を知る人、新しく住人となった人、それぞれの方が、この『昔の箱崎』の地図を見て、今と過去の我が町箱崎に心をめぐらせて頂ければ有り難いと思います。

箱崎環境対策協議会
機関紙『はこざき新聞』

目　次

★まえがき …… 1
★箱崎町会半纏印 …… 4
★搗いた餅より心もち …… 7
★昭和10年～昭和15年の北新堀、箱崎一、二、三丁目絵地図 …… 9
★凡　例 …… 10
★箱崎町全域の地図・地域割 …… 11
①北新堀地域 …… 12
②北新堀、箱崎二丁目、三丁目地域 …… 13
③箱崎一丁目、二丁目、三丁目地域 …… 14
④箱崎二丁目地域 …… 15
⑤箱崎三丁目、四丁目地域 …… 16
⑥箱崎四丁目地域 …… 17
⑦箱崎四丁目地域 …… 18
⑧箱崎四丁目地域 …… 19
※箱崎川の向かい側、蛎殻町 …… 20
★箱崎あれやこれや
☆明治時代参謀本部陸軍部測量局の地図と日本銀行 …… 23
☆思い出話 …… 24
☆はこざき昔話 …… 26
☆ちょっと立ち話 …… 27
☆箱崎と永久橋とお稲荷さん …… 28

☆箱崎の地名と歴史 …… 31
箱崎の地名由来 …… 31
北新堀の地名由来 …… 31
☆箱崎の古地図からみる歴史 …… 36
☆高速道路で消えた箱崎川 …… 38
☆土州橋 …… 39
☆名物永代団子「だんごの話」 …… 40
☆お妾横丁のはなし …… 41
☆思い出の写真
箱崎尋常小学校の先生と校歌 …… 42
箱崎四丁目町会・祭礼役員 …… 43
お祭り風景 …… 44
修学旅行 …… 44
第一合同運輸株式会社 …… 44
箱崎野球チーム …… 44
風　景 …… 45
★あとがき …… 45

箱崎町会 半纏印

箱崎北新堀町会

箱崎二・三町会

箱崎町箱四町会

東京・日本橋

偲ぶ、箱　崎　町

昭和十一年〜昭和十五年頃

【搗いた餅より心もち】

地図作成にご協力して下さった方々の感想

★弓削多稔さんの感想（最初に昔の箱崎の絵図作った）

私は箱崎二丁目に生まれ育ちましたが、彼の東京大空襲で焼き出され、箱崎小学校へ避難して助かりました。そして埼玉へ移住しました。

終戦後、学徒動員の軍需工場通いも終了し、学校に戻りました。

その当座、学校の帰りに自宅の焼け跡へ来て、今まで生活をしていたことを懐かしく思い浮かべながら呆然と立ち竦んでいた事が何回かありました。

半世紀近く経過し、年齢を重ねるにつれ、望郷の念が強まり、五十年住み続けた埼玉より勝どきに移住して来たのが十一年前です。

そして最初に考えた事は、戦前の『ふるさと』の絵図作りでした。早速、兄（神山敏夫）と相談しながら自宅周辺のところから始めました。途中ブランクもありましたが、先輩や友人等の協力を頂き、八年もかかりましたが、不完全ながら、どうにか昔の箱崎の絵図が出来上がりました。

此の度、町会役員の皆様と長老の方々のご努力にて、戦前の詳細な箱崎全体の地図帖が出来る由、楽しみお待ちしています。

ふるさと近くの空の下に移住してからは、自宅のベランダから、百千の船の往き通う【箱崎小学校校歌の最初の歌詞】隅田川と永代橋を眺め、いつも『ふるさと』があり、至福の毎日です。

★猪子さんの感想（箱崎四丁目在住）

最初、白地図を渡された時、正直「面倒くさいな」と思いました。

まぁ、頭の体操のつもりで、幼少年時代住んでいた家の周りから、当時の居住者の名前を書き入れていきました。不思議なことにだん〳〵面白くなってきました。

当時の事が思い出され、僕は藤村の定男ちゃんと仲が良くて、僕と同じく彼も生き物が好きで、負けず嫌いでした。

僕が小さいハツカネズミを飼い始めたら、早速サーちゃんも真っ白い大きなダイコクネズミを飼い、僕は思わず「参った！」と言ってしまいました。

そのサーちゃんは、戦死して今はもういません。

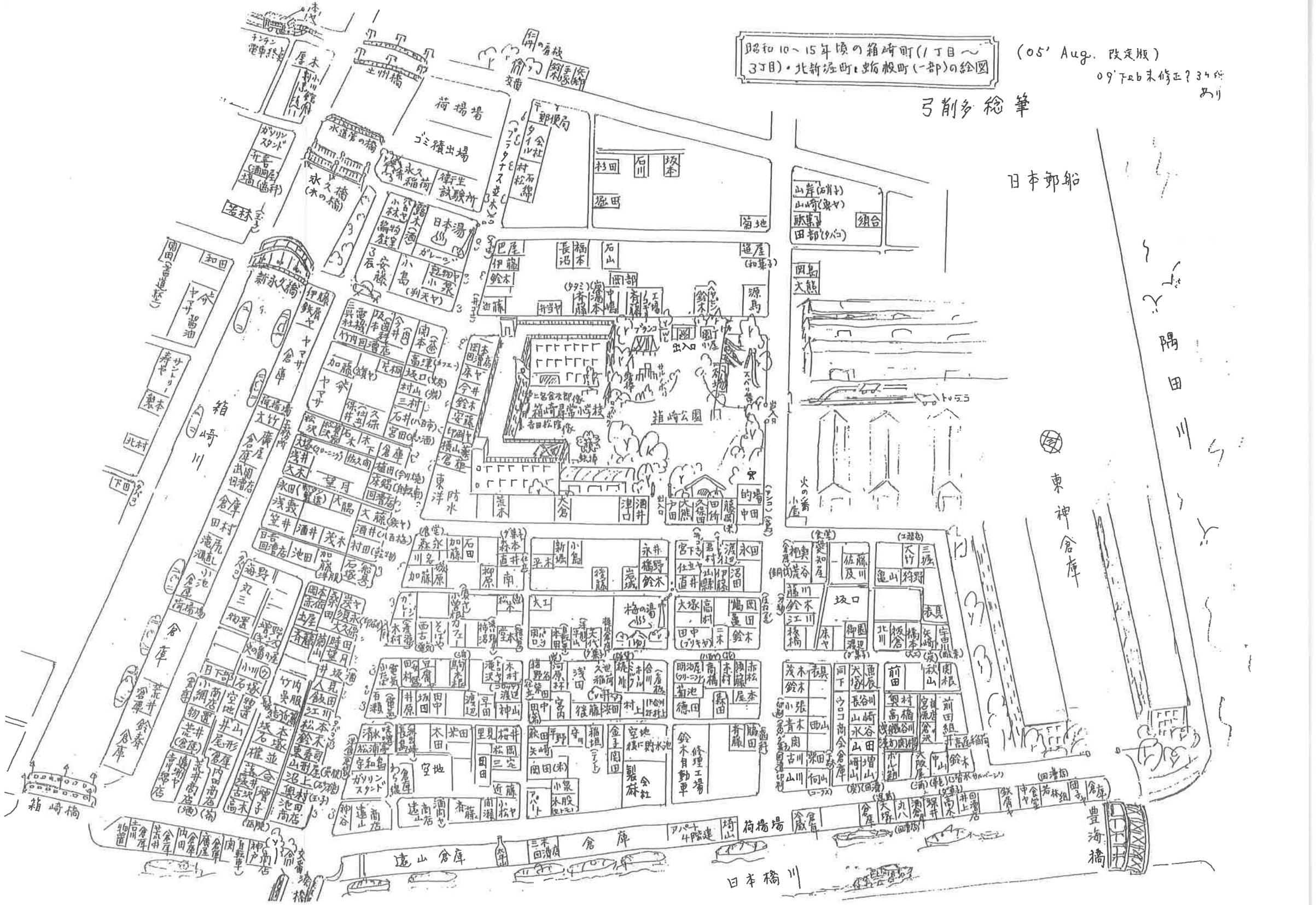
合掌

昭和10～15年頃の箱崎町(1丁目～3丁目)・北新堀町・蛎殻町(一部)の絵図

(05' Aug. 改定版)

09'Feb 未修正? 34件 あり

弓削多 総筆



凡例

箱崎地区の地図は、昭和十一年頃より昭和十五年頃までのものです。
地区が広いので、八ッの地域に分けて作成しました。〇の中に番号が付いていますので、その番号でご覧下さい。

①番……北新堀地域

②番……北新堀、箱崎二丁目、三丁目地域

③番……箱崎一丁目、二丁目、三丁目地域

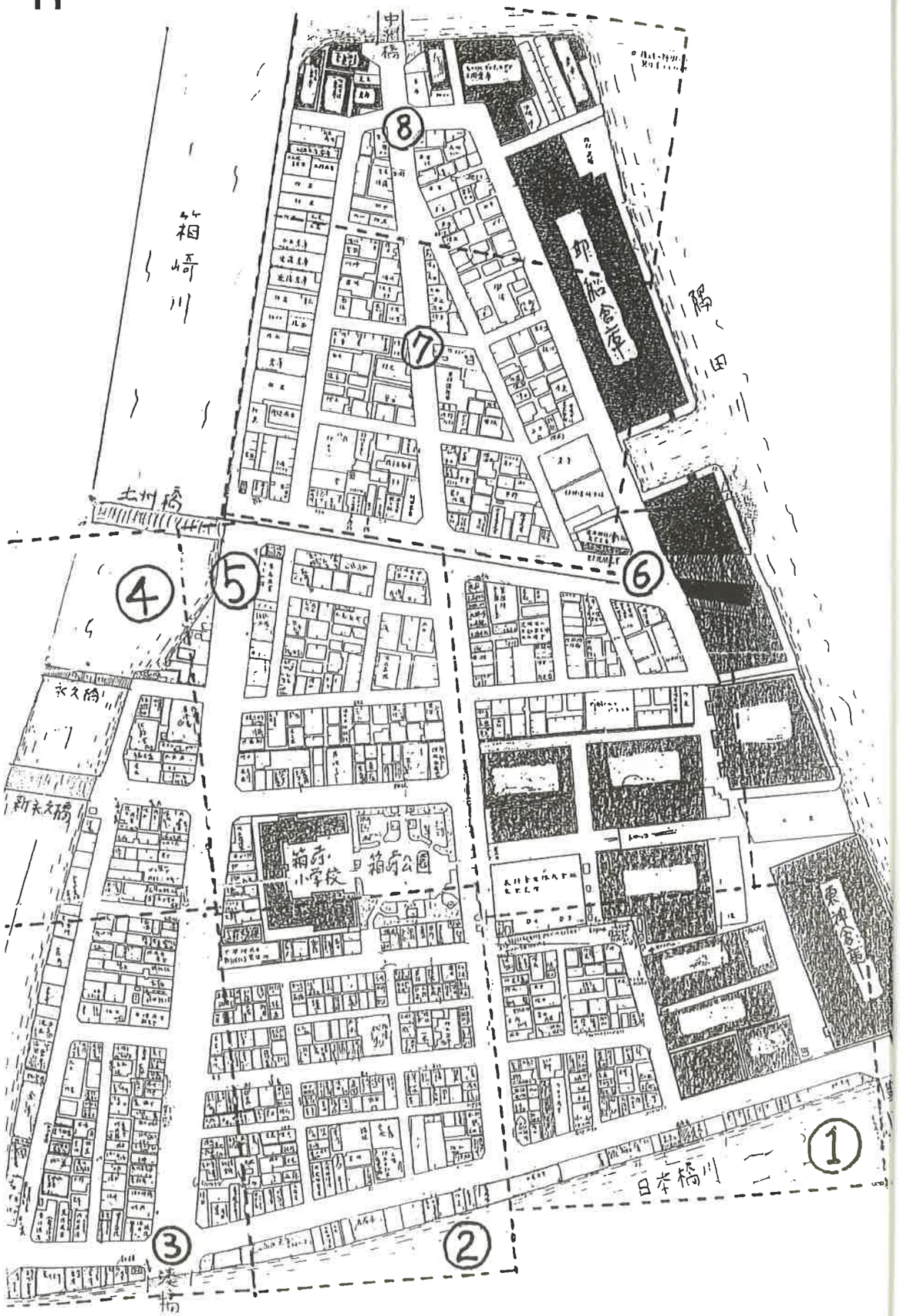
④番……箱崎二丁目地域

⑤番……箱崎三丁目、四丁目地域

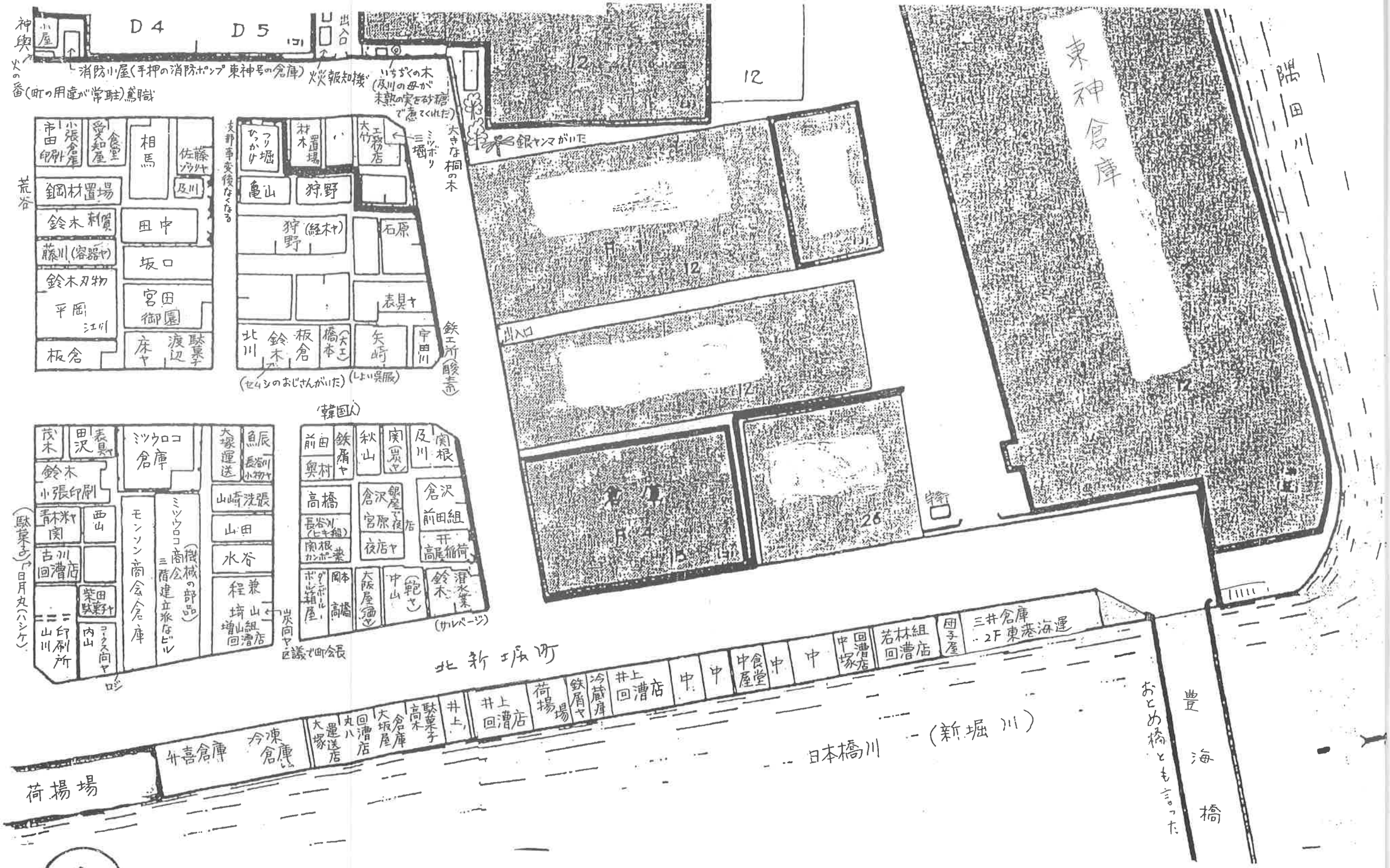
⑥番……箱崎四丁目地域

⑦番……箱崎四丁目地域

⑧番……箱崎四丁目地域

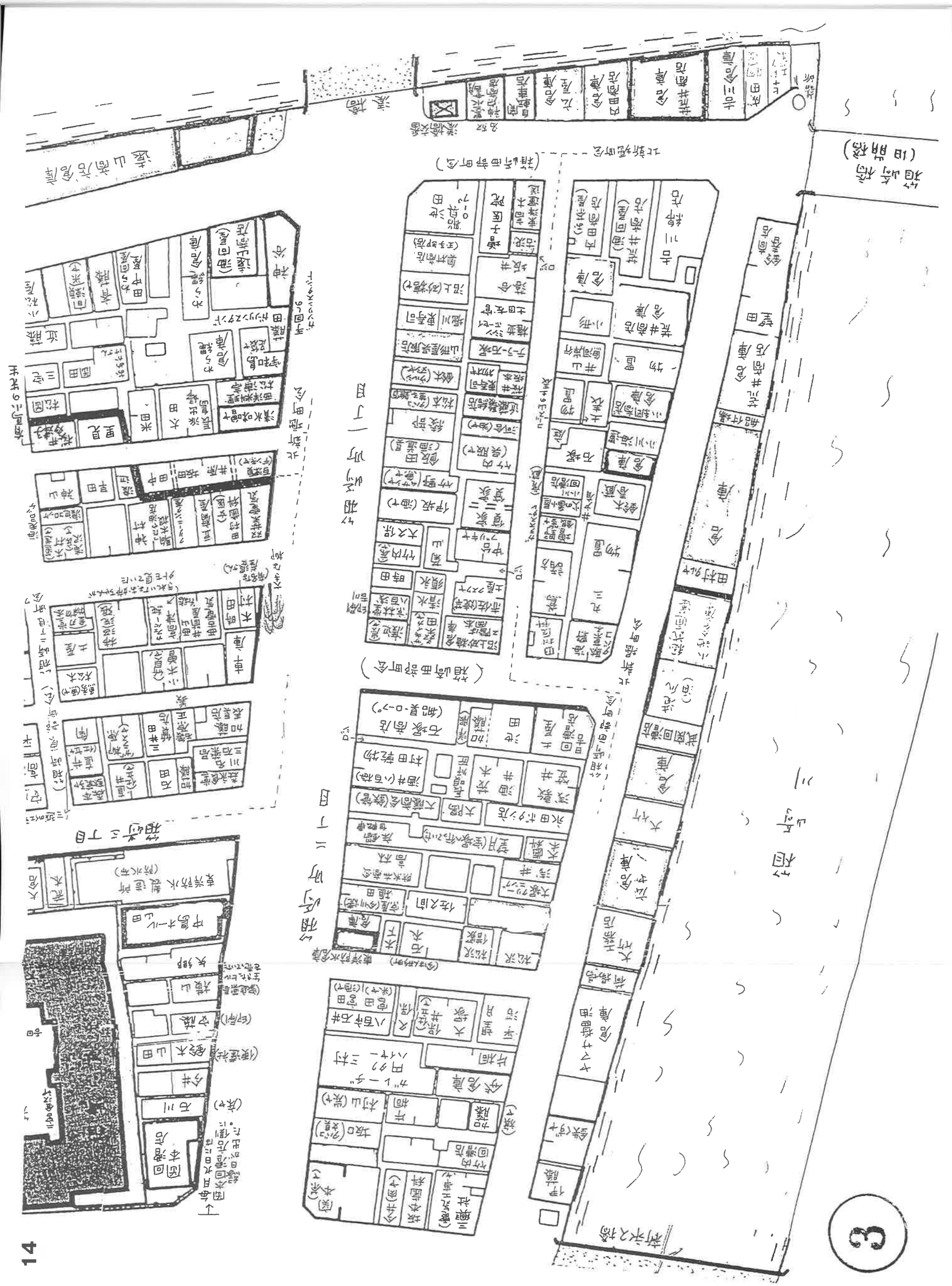


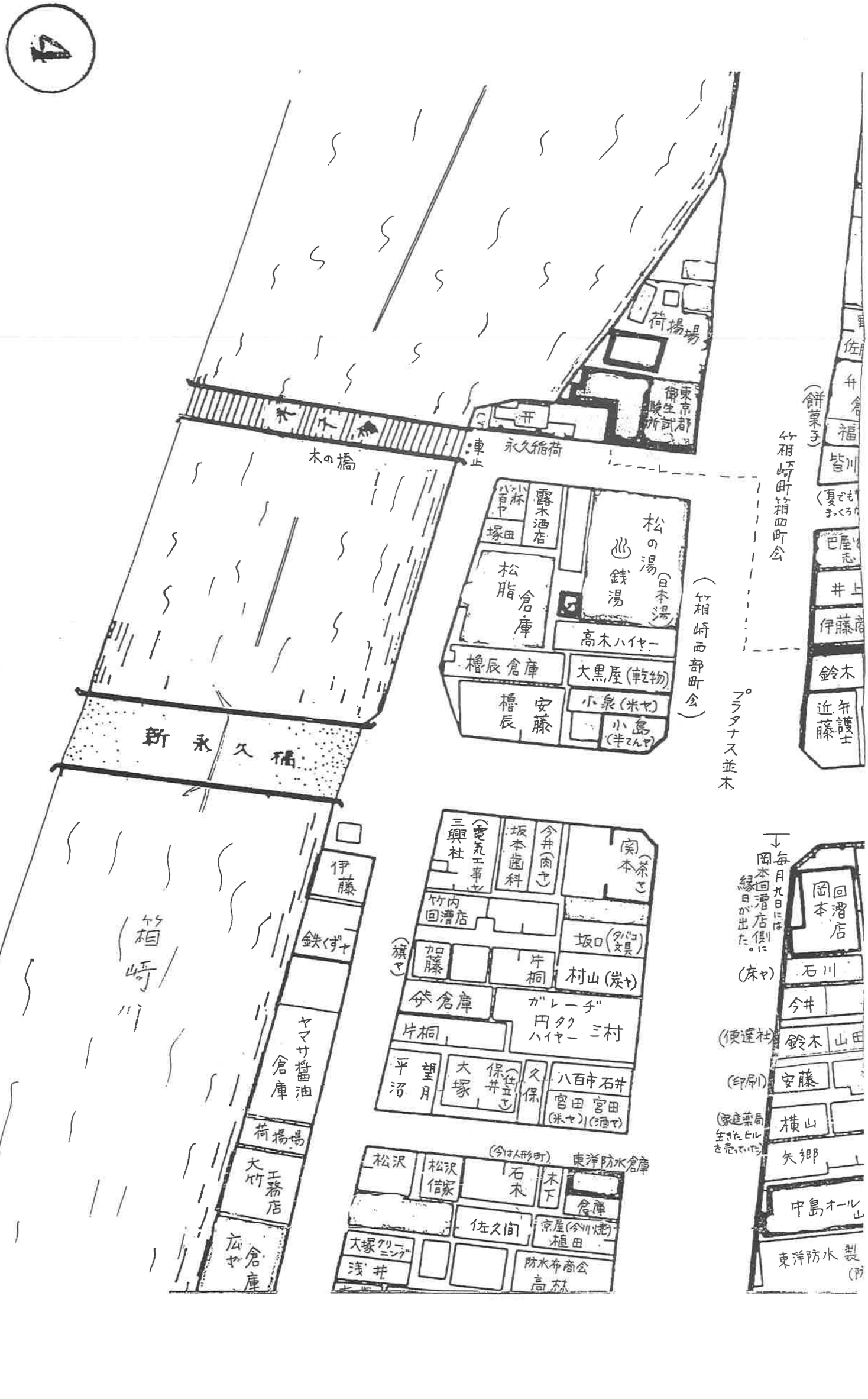
箱崎

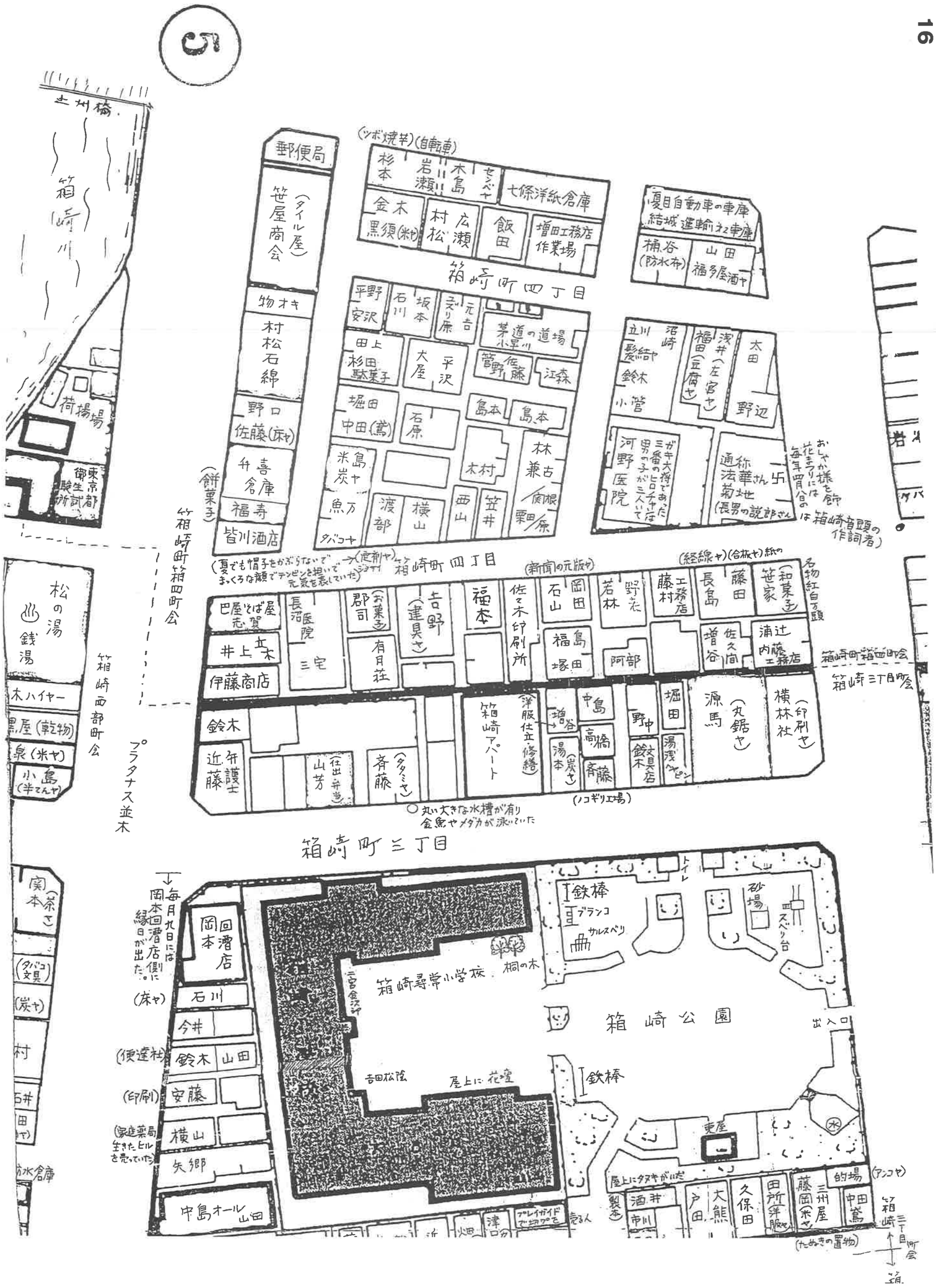

神輿
小屋
D4
D5
出入口
火の番(町の用達が常駐)駐在
消防小屋(手押の消防ポンプ 東神号の倉庫)
火災報知機
いちぢくの木(及川の母が未熟の実を砂糖で煮てくれた)
大きな桐の木
ミツボリ
三堀
銀ヤンマがいた
12
東神倉庫
陽田川
荒谷
市田印刷
小張倉庫
愛知屋
食堂
相馬
佐藤ソウヤ
及川
鋼材置場
鈴木刺賀
田中
藤川(容器ヤ)
坂口
鈴木刀物
平岡
江川
宮田御園
駐車場
渡辺
床ヤ
板倉
支那事変後なくなる
フリ堀ひっかけ
材木置場
大竹工務店
亀山
狩野
狩野(経木ヤ)
石原
表具ヤ
北川
鈴木
板倉
橋本(大工)
矢崎
宇田川
鉄工所(酸素)
(セイシのおじさんがいた)
(しよい呉服)
韓国人
茂木
田沢
表具ヤ
ミツウロコ倉庫
鈴木小張印刷
青林堂
関
西山
古川回漕店
田柴駄彩ヤ
コークス向ヤ
内山
山川印刷所
(駄菓子)
日月丸(ハシケ)
ロジ
モンソン商会倉庫
ミツウロコ商会三階建立派なビル
(機械の部品)
大塚運送
山崎洗張
山田
水谷
程兼
埼山組回漕店
魚辰
長谷川小物ヤ
前田
奥村
鉄屑ヤ
秋山
関(炭ヤ)
及川
関根
高橋
長谷川(ヒキ組)
関根カンボ業
倉沢宮原銀座で夜店
夜店ヤ
倉沢前田組
井高尾稲荷
ダンボール箱屋
岡本
高橋
大阪屋(油ヤ)
中山
(鞄ヤ)
鈴木
潜水業
(カルベージ)
炭向ヤ
区議で町会長
北新堀町
出入口
H1
12
H2
26
H3
H4
H5
荷揚場
弁喜倉庫
冷凍倉庫
大塚運送店
丸八回漕店
大坂屋倉庫
高木駄菓子
井上
井上回漕店
荷揚場
鉄屑ヤ
冷蔵庫
井上回漕店
中
中
中食堂
中
中
中塚回漕店
若林組回漕店
団子屋
三井倉庫 2F東港海運
日本橋川
(新堀川)
おとめ橋とも言った
豊海橋

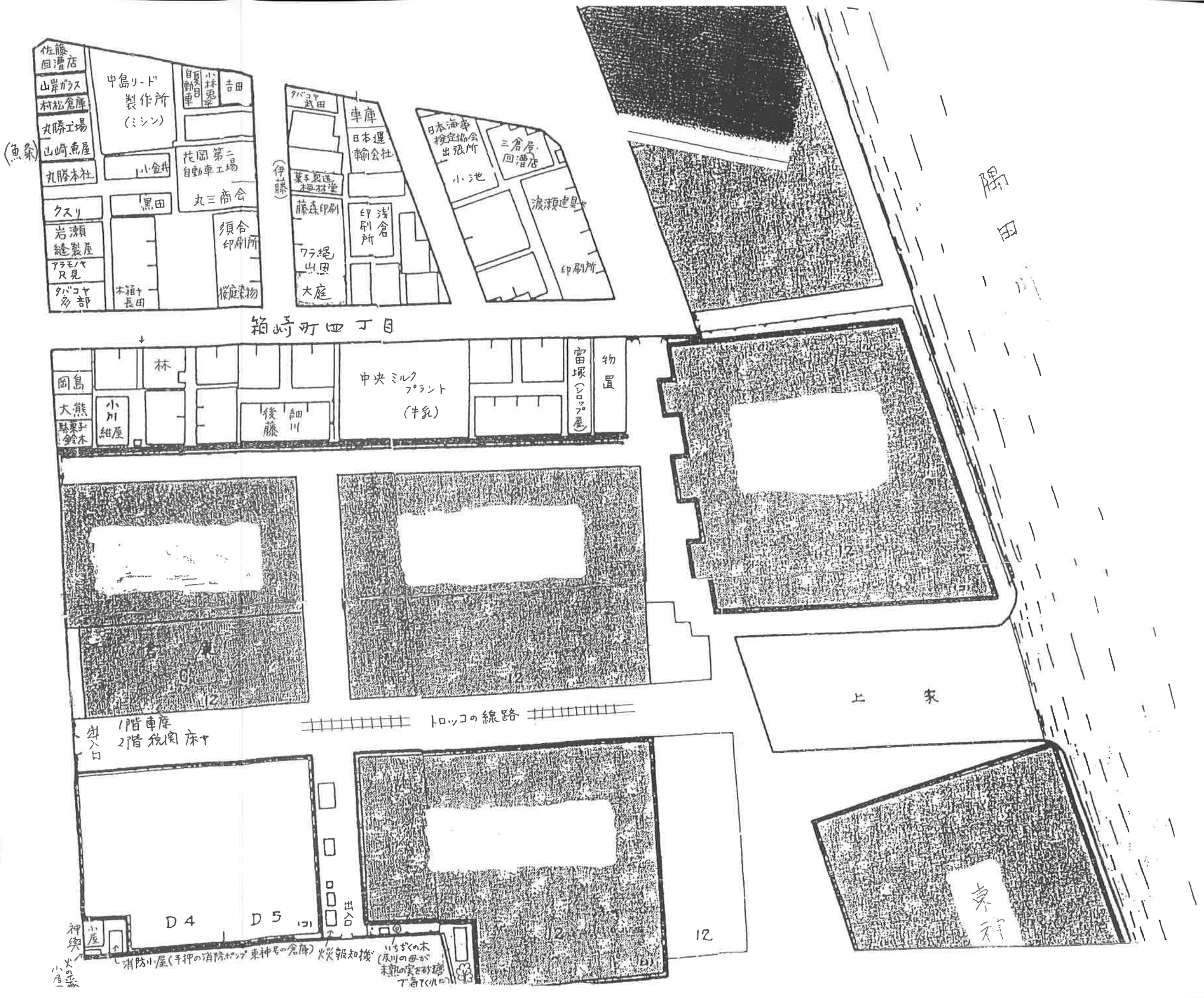
1

北新地通り
日本銀行
造幣局
大川
中之島
堂島川
土佐堀川
北浜
淀屋橋
東横堀川
道頓堀
心斎橋
難波
天満
天神橋
天満橋
京阪
JR
地下鉄
市役所
裁判所
府庁
府立図書館
中央公会堂
大阪城
大阪城天守閣
大阪城東の丸
大阪城西の丸
NHK
ホテル
デパート
銀行
証券
保険
新聞社
放送局
官庁
学校
病院
劇場
映画館
寺
神社
教会
公園
駅
橋
川
堀
船着場
遊覧船
観光船
渡し船
水上バス
地下鉄
JR
京阪
阪急
阪神
南海
近鉄
市電
バス
自転車
歩行者
交差点
信号
横断歩道
踏切
トンネル
高架
地下道
駐車場
駐輪場
ガソリンスタンド
コンビニ
スーパー
デパート
ホテル
病院
学校
図書館
美術館
博物館
水族館
動物園
植物園
温泉
銭湯
理髪店
美容院
クリーニング
郵便局
警察署
消防署
税務署
裁判所
刑務所
市役所
区役所
町役場
出張所
保健所
清掃工場
ごみ収集所
リサイクル
公衆トイレ
喫煙所
自動販売機
ATM
両替
質屋
古本屋
レンタル
貸ビル
貸家
貸間
下宿
寮
社宅
官舎
団地
マンション
アパート
一戸建て
長屋
倉庫
工場
作業所
研究所
実験室
事務所
会議室
講堂
体育館
プール
運動場
競技場
野球場
サッカー場
ゴルフ場
テニスコート
バスケットコート
遊園地
動物園
植物園
水族館
博物館
美術館
図書館
公民館
集会所
老人ホーム
保育所
幼稚園
小学校
中学校
高等学校
大学
専門学校
予備校
塾
教習所
自動車学校
運転免許センター
検問所
関所
番所
奉行所
代官所
城
櫓
門
塀
堀
石垣
天守閣
本丸
二の丸
三の丸
外堀
内堀
濠
土塁
柵
木戸
冠木門
表門
裏門
通用門
勝手口
玄関
縁側
廊下
階段
エレベーター
エスカレーター
トイレ
洗面所
浴室
台所
食堂
客間
寝室
書斎
応接室
会議室
控室
受付
待合室
診察室
手術室
病室
薬局
調剤室
倉庫
車庫
駐車場
駐輪場
ガソリンスタンド
洗車場
修理工場
整備工場
自動車
バス
トラック
タクシー
オートバイ
自転車
電車
地下鉄
JR
京阪
阪急
阪神
南海
近鉄
市電
バス
船
飛行機
ヘリコプター
ロープウェー
ケーブルカー
リフト
スキー場
ゲレンデ
スケート場
プール
海水浴場
砂浜
堤防
防波堤
灯台
港
桟橋
埠頭
岸壁
船着場
渡し船
観光船
遊覧船
水上バス
地下鉄
JR
京阪
阪急
阪神
南海
近鉄
市電
バス
自転車
歩行者
交差点
信号
横断歩道
踏切
トンネル
高架
地下道
駐車場
駐輪場
ガソリンスタンド
コンビニ
スーパー
デパート
ホテル
病院
学校
図書館
美術館
博物館
水族館
動物園
植物園
温泉
銭湯
理髪店
美容院
クリーニング
郵便局
警察署
消防署
税務署
裁判所
刑務所
市役所
区役所
町役場
出張所
保健所
清掃工場
ごみ収集所
リサイクル
公衆トイレ
喫煙所
自動販売機
ATM
両替
質屋
古本屋
レンタル
貸ビル
貸家
貸間
下宿
寮
社宅
官舎
団地
マンション
アパート
一戸建て
長屋
倉庫
工場
作業所
研究所
実験室
事務所
会議室
講堂
体育館
プール
運動場
競技

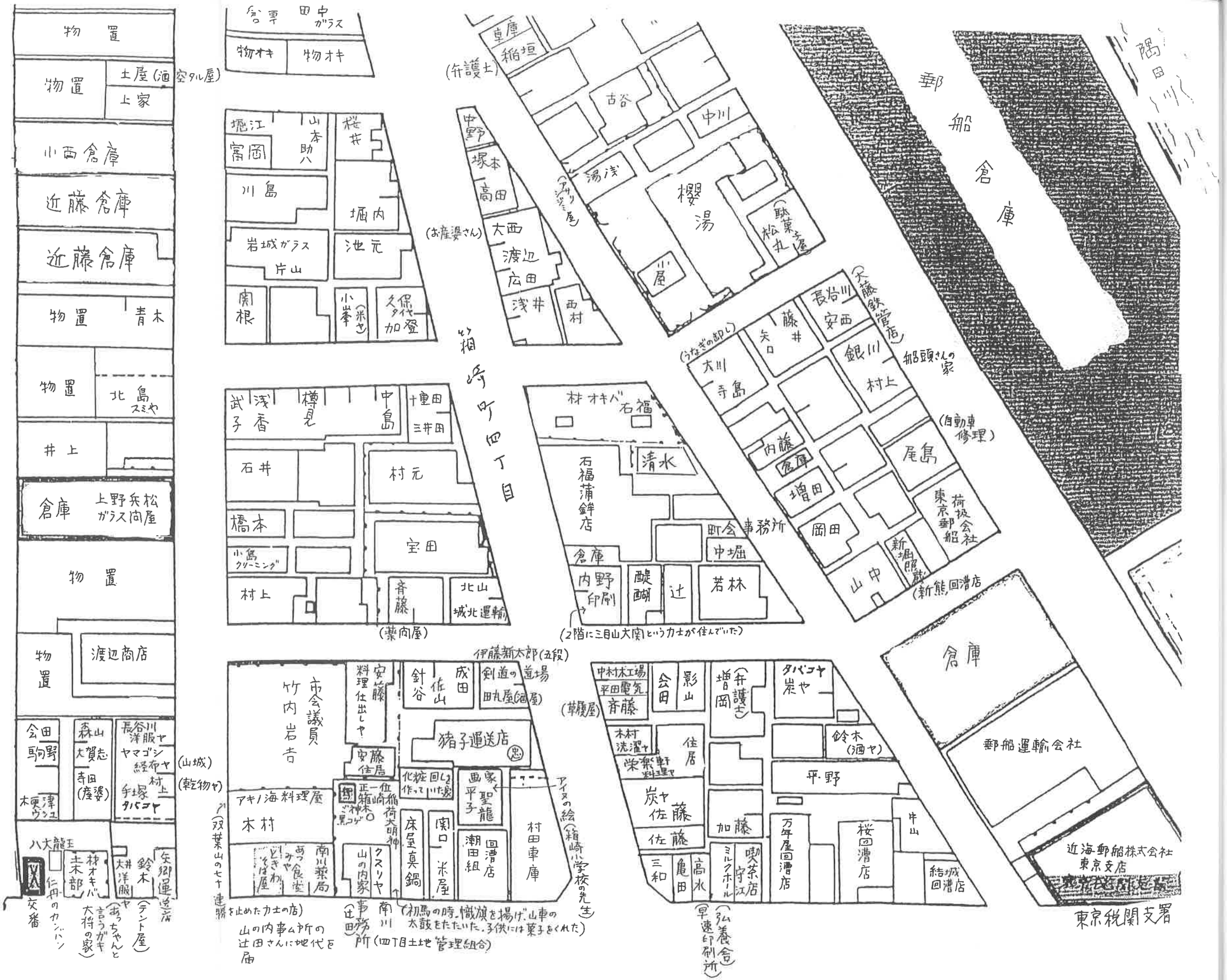

3
新永3丁目
相生町
旭町三丁目
(旭町一丁目)
(旭町二丁目)
(旭町三丁目)
(旭町四丁目)
(旭町五丁目)
(旭町六丁目)
(旭町七丁目)
(旭町八丁目)
(旭町九丁目)
(旭町十丁目)
(旭町十一丁目)
(旭町十二丁目)
(旭町十三丁目)
(旭町十四丁目)
(旭町十五丁目)
(旭町十六丁目)
(旭町十七丁目)
(旭町十八丁目)
(旭町十九丁目)
(旭町二十丁目)
(旭町二十一丁目)
(旭町二十二丁目)
(旭町二十三丁目)
(旭町二十四丁目)
(旭町二十五丁目)
(旭町二十六丁目)
(旭町二十七丁目)
(旭町二十八丁目)
(旭町二十九丁目)
(旭町三十丁目)
(旭町三十一丁目)
(旭町三十二丁目)
(旭町三十三丁目)
(旭町三十四丁目)
(旭町三十五丁目)
(旭町三十六丁目)
(旭町三十七丁目)
(旭町三十八丁目)
(旭町三十九丁目)
(旭町四十丁目)
(旭町四十一丁目)
(旭町四十二丁目)
(旭町四十三丁目)
(旭町四十四丁目)
(旭町四十五丁目)
(旭町四十六丁目)
(旭町四十七丁目)
(旭町四十八丁目)
(旭町四十九丁目)
(旭町五十丁目)
(旭町五十一丁目)
(旭町五十二丁目)
(旭町五十三丁目)
(旭町五十四丁目)
(旭町五十五丁目)
(旭町五十六丁目)
(旭町五十七丁目)
(旭町五十八丁目)
(旭町五十九丁目)
(旭町六十丁目)
(旭町六十一丁目)
(旭町六十二丁目)
(旭町六十三丁目)
(旭町六十四丁目)
(旭町六十五丁目)
(旭町六十六丁目)
(旭町六十七丁目)
(旭町六十八丁目)
(旭町六十九丁目)
(旭町七十丁目)
(旭町七十一丁目)
(旭町七十二丁目)
(旭町七十三丁目)
(旭町七十四丁目)
(旭町七十五丁目)
(旭町七十六丁目)
(旭町七十七丁目)
(旭町七十八丁目)
(旭町七十九丁目)
(旭町八十丁目)
(旭町八十一丁目)
(旭町八十二丁目)
(旭町八十三丁目)
(旭町八十四丁目)
(旭町八十五丁目)
(旭町八十六丁目)
(旭町八十七丁目)
(旭町八十八丁目)
(旭町八十九丁目)
(旭町九十丁目)
(旭町九十一丁目)
(旭町九十二丁目)
(旭町九十三丁目)
(旭町九十四丁目)
(旭町九十五丁目)
(旭町九十六丁目)
(旭町九十七丁目)
(旭町九十八丁目)
(旭町九十九丁目)
(旭町百丁目)
(旭町百一丁目)
(旭町百二丁目)
(旭町百三丁目)
(旭町百四丁目)
(旭町百五丁目)
(旭町百六丁目)
(旭町百七丁目)
(旭町百八丁目)
(旭町百九丁目)
(旭町百十丁目)
(旭町百十一丁目)
(旭町百十二丁目)
(旭町百十三丁目)
(旭町百十四丁目)
(旭町百十五丁目)
(旭町百十六丁目)
(旭町百十七丁目)
(旭町百十八丁目)
(旭町百十九丁目)
(旭町百二十丁目)
(旭町百二十一丁目)
(旭町百二十二丁目)
(旭町百二十三丁目)
(旭町百二十四丁目)
(旭町百二十五丁目)
(旭町百二十六丁目)
(旭町百二十七丁目)
(旭町百二十八丁目)
(旭町百二十九丁目)
(旭町百三十丁目)
(旭町百三十一丁目)
(旭町百三十二丁目)
(旭町百三十三丁目)
(旭町百三十四丁目)
(旭町百三十五丁目)
(旭町百三十六丁目)
(旭町百三十七丁目)
(旭町百三十八丁目)
(旭町百三十九丁目)
(旭町百四十丁目)
(旭町百四十一丁目)
(旭町百四十二丁目)
(旭町百四十三丁目)
(旭町百四十四丁目)
(旭町百四十五丁目)
(旭町百四十六丁目)
(旭町百四十七丁目)
(旭町百四十八丁目)
(旭町百四十九丁目)
(旭町百五十丁目)
(旭町百五十一丁目)
(旭町百五十二丁目)
(旭町百五十三丁目)
(旭町百五十四丁目)
(旭町百五十五丁目)
(旭町百五十六丁目)
(旭町百五十七丁目)
(旭町百五十八丁目)
(旭町百五十九丁目)
(旭町百六十丁目)
(旭町百六十一丁目)
(旭町百六十二丁目)
(旭町百六十三丁目)
(旭町百六十四丁目)
(旭町百六十五丁目)
(旭町百六十六丁目)
(旭町百六十七丁目)
(旭町百六十八丁目)
(旭町百六十九丁目)
(旭町百七十丁目)
(旭町百七十一丁目)
(旭町百七十二丁目)
(旭町百七十三丁目)
(旭町百七十四丁目)
(旭町百七十五丁目)
(旭町百七十六丁目)
(旭町百七十七丁目)
(旭町百七十八丁目)
(旭町百七十九丁目)
(旭町百八十丁目)
(旭町百八十一丁目)
(旭町百八十二丁目)
(旭町百八十三丁目)
(旭町百八十四丁目)
(旭町百八十五丁目)
(旭町百八十六丁目)
(旭町百八十七丁目)
(旭町百八十八丁目)
(旭町百八十九丁目)
(旭町百九十丁目)
(旭町百九十一丁目)
(旭町百九十二丁目)
(旭町百九十三丁目)
(旭町百九十四丁目)
(旭町百九十五丁目)
(旭町百九十六丁目)
(旭町百九十七丁目)
(旭町百九十八丁目)
(旭町百九十九丁目)
(旭町二百丁目)
(旭町二百一丁目)
(旭町二百二丁目)
(旭町二百三丁目)
(旭町二百四丁目)
(旭町二百五丁目)
(旭町二百六丁目)
(旭町二百七丁目)
(旭町二百八丁目)
(旭町二百九丁目)
(旭町二百十丁目)
(旭町二百十一丁目)
(旭町二百十二丁目)
(旭町二百十三丁目)
(旭町二百十四丁目)
(旭町二百十五丁目)
(旭町二百十六丁目)
(旭町二百十七丁目)
(旭町二百十八丁目)
(旭町二百十九丁目)
(旭町二百二十丁目)
(旭町二百二十一丁目)
(旭町二百二十二丁目)
(旭町二百二十三丁目)
(旭町二百二十四丁目)
(旭町二百二十五丁目)
(旭町二百二十六丁目)
(旭町二百二十七丁目)
(旭町二百二十八丁目)
(旭町二百二十九丁目)
(旭町二百三十丁目)
(旭町二百三十一丁目)
(旭町二百三十二丁目)
(旭町二百三十三丁目)
(旭町二百三十四丁目)
(旭町二百三十五丁目)
(旭町二百三十六丁目)
(旭町二百三十七丁目)
(旭町二百三十八丁目)
(旭町二百三十九丁目)
(旭町二百四十丁目)
(旭町二百四十一丁目)
(旭町二百四十二丁目)
(旭町二百四十三丁目)
(旭町二百四十四丁目)
(旭町二百四十五丁目)
(旭町二百四十六丁目)
(旭町二百四十七丁目)
(旭町二百四十八丁目)
(旭町二百四十九丁目)
(旭町二百五十丁目)
(旭町二百五十一丁目)
(旭町二百五十二丁目)
(旭町二百五十三丁目)
(旭町二百五十四丁目)
(旭町二百五十五丁目)
(旭町二百五十六丁目)
(旭町二百五十七丁目)
(旭町二百五十八丁目)
(旭町二百五十九丁目)
(旭町二百六十丁目)
(旭町二百六十一丁目)
(旭町二百六十二丁目)
(旭町二百六十三丁目)
(旭町二百六十四丁目)
(旭町二百六十五丁目)
(旭町二百六十六丁目)
(旭町二百六十七丁目)
(旭町二百六十八丁目)
(旭町二百六十九丁目)
(旭町二百七十丁目)
(旭町二百七十一丁目)
(旭町二百七十二丁目)
(旭町二百七十三丁目)
(旭町二百七十四丁目)
(旭町二百七十五丁目)
(旭町二百七十六丁目)
(旭町二百七十七丁目)
(旭町二百七十八丁目)
(旭町二百七十九丁目)
(旭町二百八十丁目)
(旭町二百八十一丁目)
(旭町二百八十二丁目)
(旭町二百八十三丁目)
(旭町二百八十四丁目)
(旭町二百八十五丁目)
(旭町二百八十六丁目)
(旭町二百八十七丁目)
(旭町二百八十八丁目)
(旭町二百八十九丁目)
(旭町二百九十丁目)
(旭町二百九十一丁目)
(旭町二百九十二丁目)
(旭町二百九十三丁目)
(旭町二百九十四丁目)
(旭町二百九十五丁目)
(旭町二百九十六丁目)
(旭町二百九十七丁目)
(旭町二百九十八丁目)
(旭町二百九十九丁目)
(旭町三百丁目)
(旭町三百一丁目)
(旭町三百二丁目)
(旭町三百三丁目)
(旭町三百四丁目)
(旭町三百五丁目)
(旭町三百六丁目)
(旭町三百七丁目)
(旭町三百八丁目)
(旭町三百九丁目)
(旭町三百十丁目)
(旭町三百十一丁目)
(旭町三百十二丁目)
(旭町三百十三丁目)
(旭町三百十四丁目)
(旭町三百十五丁目)
(旭町三百十六丁目)
(旭町三百十七丁目)
(旭町三百十八丁目)
(旭町三百十九丁目)
(旭町三百二十丁目)
(旭町三百二十一丁目)
(旭町三百二十二丁目)
(旭町三百二十三丁目)
(旭町三百二十四丁目)
(旭町三百二十五丁目)
(旭町三百二十六丁目)
(旭町三百二十七丁目)
(旭町三百二十八丁目)
(旭町三百二十九丁目)
(旭町三百三十丁目)
(旭町三百三十一丁目)
(旭町三百三十二丁目)
(旭町三百三十三丁目)
(旭町三百三十四丁目)
(旭町三百三十五丁目)
(旭町三百三十六丁目)
(旭町三百三十七丁目)
(旭町三百三十八丁目)
(旭町三百三十九丁目)
(旭町三百四十丁目)
(旭町三百四十一丁目)
(旭町三百四十二丁目)
(旭町三百四十三丁目)
(旭町三百四十四丁目)
(旭町三百四十五丁目)
(旭町三百四十六丁目)
(旭町三百四十七丁目)
(旭町三百四十八丁目)
(旭町三百四十九丁目)
(旭町三百五十丁目)
(旭町三百五十一丁目)
(旭町三百五十二丁目)
(旭町三百五十三丁目)
(旭町三百五十四丁目)
(旭町三百五十五丁目)
(旭町三百五十六丁目)
(旭町三百五十七丁目)
(旭町三百五十八丁目)
(旭町三百五十九丁目)
(旭町三百六十丁目)
(旭町三百六十一丁目)
(旭町三百六十二丁目)
(旭町三百六十三丁目)
(旭町三百六十四丁目)
(旭町三百六十五丁目)
(旭町三百六十六丁目)
(旭町三百六十七丁目)
(旭町三百六十八丁目)
(旭町三百六十九丁目)
(旭町三百七十丁目)
(旭町三百七十一丁目)
(旭町三百七十二丁目)
(旭町三百七十三丁目)
(旭町三百七十四丁目)
(旭町三百七十五丁目)
(旭町三百七十六丁目)
(旭町三百七十七丁目)
(旭町三百七十八丁目)
(旭町三百七十九丁目)
(旭町三百八十丁目)
(旭町三百八十一丁目)
(旭町三百八十二丁目)
(旭町三百八十三丁目)
(旭町三百八十四丁目)
(旭町三百八十五丁目)
(旭町三百八十六丁目)
(旭町三百八十七丁目)
(旭町三百八十八丁目)
(旭町三百八十九丁目)
(旭町三百九十丁目)
(旭町三百九十一丁目)
(旭町三百九十二丁目)
(旭町三百九十三丁目)
(旭町三百九十四丁目)
(旭町三百九十五丁目)
(旭町三百九十六丁目)
(旭町三百九十七丁目)
(旭町三百九十八丁目)
(旭町三百九十九丁目)
(旭町四百丁目)
(旭町四百一丁目)
(旭町四百二丁目)
(旭町四百三丁目)
(旭町四百四丁目)
(旭町四百五丁目)
(旭町四百六丁目)
(旭町四百七丁目)
(旭町四百八丁目)
(旭町四百九丁目)
(旭町四百十丁目)
(旭町四百十一丁目)
(旭町四百十二丁目)
(旭町四百十三丁目)
(旭町四百十四丁目)
(旭町四百十五丁目)
(旭町四百十六丁目)
(旭町四百十七丁目)
(旭町四百十八丁目)
(旭町四百十九丁目)
(旭町四百二十丁目)
(旭町四百二十一丁目)
(旭町四百二十二丁目)
(旭町四百二十三丁目)
(旭町四百二十四丁目)
(旭町四百二十五丁目)
(旭町四百二十六丁目)
(旭町四百二十七丁目)
(旭町四百二十八丁目)
(旭町四百二十九丁目)
(旭町四百三十丁目)
(旭町四百三十一丁目)
(旭町四百三十二丁目)
(旭町四百三十三丁目)
(旭町四百三十四丁目)
(旭町四百三十五丁目)
(旭町四百三十六丁目)
(旭町四百三十七丁目)
(旭町四百三十八丁目)
(旭町四百三十九丁目)
(旭町四百四十丁目)
(旭町四百四十一丁目)
(旭町四百四十二丁目)
(旭町四百四十三丁目)
(旭町四百四十四丁目)
(旭町四百四十五丁目)
(旭町四百四十六丁目)
(旭町四百四十七丁目)
(旭町四百四十八丁目)
(旭町四百四十九丁目)
(旭町四百五十丁目)
(旭町四百五十一丁目)
(旭町四百五十二丁目)
(旭町四百五十三丁目)
(旭町四百五十四丁目)
(旭町四百五十五丁目)
(旭町四百五十六丁目)
(旭町四百五十七丁目)
(旭町四百五十八丁目)
(旭町四百五十九丁目)
(旭町四百六十丁目)
(旭町四百六十一丁目)
(旭町四百六十二丁目)
(旭町四百六十三丁目)
(旭町四百六十四丁目)
(旭町四百六十五丁目)
(旭町四百六十六丁目)
(旭町四百六十七丁目)
(旭町四百六十八丁目)
(旭町四百六十九丁目)
(旭町四百七十丁目)
(旭町四百七十一丁目)
(旭町四百七十二丁目)
(旭町四百七十三丁目)
(旭町四百七十四丁目)
(旭町四百七十五丁目)
(旭町四百七十六丁目)
(旭町四百七十七丁目)
(旭町四百七十八丁目)
(旭町四百七十九丁目)
(旭町四百八十丁目)
(旭町四百八十一丁目)
(旭町四百八十二丁目)
(旭町四百八十三丁目)
(旭町四百八十四丁目)
(旭町四百八十五丁目)
(旭町四百八十六丁目)
(旭町四百八十七丁目)
(旭町四百八十八丁目)
(旭町四百八十九丁目)
(旭町四百九十丁目)
(旭町四百九十一丁目)
(旭町四百九十二丁目)
(旭町四百九十三丁目)
(旭町四百九十四丁目)
(旭町四百九十五丁目)
(旭町四百九十六丁目)
(旭町四百九十七丁目)
(旭町四百九十八丁目)
(旭町四百九十九丁目)
(旭町五百丁目)
(旭町五百一丁目)
(旭町五百二丁目)
(旭町五百三丁目)
(旭町五百四丁目)
(旭町五百五丁目)
(旭町五百六丁目)
(旭町五百七丁目)
(旭町五百八丁目)
(旭町五百九丁目)
(旭町五百十丁目)
(旭町五百十一丁目)
(旭町五百十二丁目)
(旭町五百十三丁目)
(旭町五百十四丁目)
(旭町五百十五丁目)
(旭町五百十六丁目)
(旭町五百十七丁目)
(旭町五百十八丁目)
(旭町五百十九丁目)
(旭町五百二十丁目)
(旭町五百二十一丁目)
(旭町五百二十二丁目)
(旭町五百二十三丁目)
(旭町五百二十四丁目)
(旭町五百二十五丁目)
(旭町五百二十六丁目)
(旭町五百二十七丁目)
(旭町五百二十八丁目)
(旭町五百二十九丁目)
(旭町五百三十丁目)
(旭町五百三十一丁目)
(旭町五百三十二丁目)
(旭町五百三十三丁目)
(旭町五百三十四丁目)
(旭町五百三十五丁目)
(旭町五百三十六丁目)
(旭町五百三十七丁目)
(旭町五百三十八丁目)
(旭町五百三十九丁目)
(旭町五百四十丁目)
(旭町五百四十一丁目)
(旭町五百四十二丁目)
(旭町五百四十三丁目)
(旭町五百四十四丁目)
(旭町五百四十五丁目)
(旭町五百四十六丁目)
(旭町五百四十七丁目)
(旭町五百四十八丁目)
(旭町五百四十九丁目)
(旭町五百五十丁目)
(旭町五百五十一丁目)
(旭町五百五十二丁目)
(旭町五百五十三丁目)
(旭町五百五十四丁目)
(旭町五百五十五丁目)
(旭町五百五十六丁目)
(旭町五百五十七丁目)
(旭町五百五十八丁目)
(旭町五百五十九丁目)
(旭町五百六十丁目)
(旭町五百六十一丁目)
(旭町五百六十二丁目)
(旭町五百六十三丁目)
(旭町五百六十四丁目)
(旭町五百六十五丁目)
(旭町五百六十六丁目)
(旭町五百六十七丁目)
(旭町五百六十八丁目)
(旭町五百六十九丁目)
(旭町五百七十丁目)
(旭町五百七十一丁目)
(旭町五百七十二丁目)
(旭町五百七十三丁目)
(旭町五百七十四丁目)
(旭町五百七十五丁目)
(旭町五百七十六丁目)
(旭町五百七十七丁目)
(旭町五百七十八丁目)
(旭町五百七十九丁目)
(旭町五百八十丁目)
(旭町五百八十一丁目)
(旭町五百八十二丁目)
(旭町五百八十三丁目)
(旭町五百八十四丁目)
(旭町五百八十五丁目)
(旭町五百八十六丁目)
(旭町五百八十七丁目)
(旭町五百八十八丁目)
(旭町五百八十九丁目)
(旭町五百九十丁目)
(旭町五百九十一丁目)
(旭町五百九十二丁目)
(旭町五百九十三丁目)
(旭町五百九十四丁目)
(旭町五百九十五丁目)
(旭町五百九十六丁目)
(旭町五百九十七丁目)
(旭町五百九十八丁目)
(旭町五百九十九丁目)
(旭町六百丁目)
(旭町六百一丁目)
(旭町六百二丁目)
(旭町六百三丁目)
(旭町六百四丁目)
(旭町六百五丁目)
(旭町六百六丁目)
(旭町六百七丁目)
(旭町六百八丁目)
(旭町六百九丁目)
(旭町六百十丁目)
(旭町六百十一丁目)
(旭町六百十二丁目)
(旭町六百十三丁目)
(旭町六百十四丁目)
(旭町六百十五丁目)
(旭町六百十六丁目)
(旭町六百十七丁目)
(旭町六百十八丁目)
(旭町六百十九丁目)
(旭町六百二十丁目)
(旭町六百二十一丁目)
(旭町六百二十二丁目)
(旭町六百二十三丁目)
(旭町六百二十四丁目)
(旭町六百二十五丁目)
(旭町六百二十六丁目)
(旭町六百二十七丁目)
(旭町六百二十八丁目)
(旭町六百二十九丁目)
(旭町六百三十丁目)
(旭町六百三十一丁目)
(旭町六百三十二丁目)
(旭町六百三十三丁目)
(旭町六百三十四丁目)
(旭町六百三十五丁目)
(旭町六百三十六丁目)
(旭町六百三十七丁目)
(旭町六百三十八丁目)
(旭町六百三十九丁目)
(旭町六百四十丁目)
(旭町六百四十一丁目)
(旭町六百四十二丁目)
(旭町六百四十三丁目)
(旭町六百四十四丁目)
(旭町六百四十五丁目)
(旭町六百四十六丁目)
(旭町六百四十七丁目)
(旭町六百四十八丁目)
(旭町六百四十九丁目)
(旭町六百五十丁目)
(旭町六百五十一丁目)
(旭町六百五十二丁目)
(旭町六百五十三丁目)
(旭町六百五十四丁目)
(旭町六百五十五丁目)
(旭町六百五十六丁目)
(旭町六百五十七丁目)
(旭町六百五十八丁目)
(旭町六百五十九丁目)
(旭町六百六十丁目)
(旭町六百六十一丁目)
(旭町六百六十二丁目)
(旭町六百六十三丁目)
(旭町六百六十四丁目)
(旭町六百六十五丁目)
(旭町六百六十六丁目)
(旭町六百六十七丁目)
(旭町六百六十八丁目)
(旭町六百六十九丁目)
(旭町六百七十丁目)
(旭町六百七十一丁目)
(旭町六百七十二丁目)
(旭町六百七十三丁目)
(旭町六百七十四丁目)
(旭町六百七十五丁目)
(旭町六百七十六丁目)
(旭町六百七十七丁目)
(旭町六百七十八丁目)
(旭町六百七十九丁目)
(旭町六百八十丁目)
(旭町六百八十一丁目)
(旭町六百八十二丁目)
(旭町六百八十三丁目)
(旭町六百八十四丁目)
(旭町六百八十五丁目)
(旭町六百八十六丁目)
(旭町六百八十七丁目)
(旭町六百八十八丁目)
(旭町六百八十九丁目)
(旭町六百九十丁目)
(旭町六百九十一丁目)
(旭町六百九十二丁目)
(旭町六百九十三丁目)
(旭町六百九十四丁目)
(旭町六百九十五丁目)
(旭町六百九十六丁目)
(旭町六百九十七丁目)
(旭町六百九十八丁目)
(旭町六百九十九丁目)
(旭町七百丁目)
(旭町七百一丁目)
(旭町七百二丁目)
(旭町七百三丁目)
(旭町七百四丁目)
(旭町七百五丁目)
(旭町七百六丁目)
(旭町七百七丁目)
(旭町七百八丁目)
(旭町七百九丁目)
(旭町七百十丁目)
(旭町七百十一丁目)
(旭町七百十二丁目)
(旭町七百十三丁目)
(旭町七百十四丁目)
(旭町七百十五丁目)
(旭町七百十六丁目)
(旭町七百十七丁目)
(旭町七百十八丁目)
(旭町七百十九丁目)
(旭町七百二十丁目)
(旭町七百二十一丁目)
(旭町七百二十二丁目)
(旭町七百二十三丁目)
(旭町七百二十四丁目)
(旭町七百二十五丁目)
(旭町七百二十六丁目)
(旭町七百二十七丁目)
(旭町七百二十八丁目)
(旭町七百二十九丁目)
(旭町七百三十丁目)
(旭町七百三十一丁目)
(旭町七百三十二丁目)
(旭町七百三十三丁目)
(旭町七百三十四丁目)
(旭町七百三十五丁目)
(旭町七百三十六丁目)
(旭町七百三十七丁目)
(旭町七百三十八丁目)
(旭町七百三十九丁目)
(旭町七百四十丁目)
(旭町七百四十一丁目)
(旭町七百四十二丁目)
(旭町七百四十三丁目)
(旭町七百四十四丁目)
(旭町七百四十五丁目)
(旭町七百四十六丁目)
(旭町七百四十七丁目)
(旭町七百四十八丁目)
(旭町七百四十九丁目)
(旭町七百五十丁目)
(旭町七百五十一丁目)
(旭町七百五十二丁目)
(旭町七百五十三丁目)
(旭町七百五十四丁目)
(旭町七百五十五丁目)
(旭町七百五十六丁目)
(旭町七百五十七丁目)
(旭町七百五十八丁目)
(旭町七百五十九丁目)
(旭町七百六十丁目)
(旭町七百六十一丁目)
(旭町七百六十二丁目)
(旭町七百六十三丁目)
(旭町七百六十四丁目)
(旭町七百六十五丁目)
(旭町七百六十六丁目)
(旭町七百六十七丁目)
(旭町七百六十八丁目)
(旭町七百六十九丁目)
(旭町七百七十丁目)
(旭町七百七十一丁目)
(旭町七百七十二丁目)
(旭町七百七十三丁目)
(旭町七百七十四丁目)
(旭町七百七十五丁目)
(旭町七百七十六丁目)
(旭町七百七十七丁目)
(旭町七百七十八丁目)
(旭町七百七十九丁目)
(旭町七百八十丁目)
(旭町七百八十一丁目)
(旭町七百八十二丁目)
(旭町七百八十三丁目)
(旭町七百八十四丁目)
(旭町七百八十五丁目)
(旭町七百八十六丁目)
(旭町七百八十七丁目)
(旭町七百八十八丁目)
(旭町七百八十九丁目)
(旭町七百九十丁目)
(旭町七百九十一丁目)
(旭町七百九十二丁目)
(旭町七百九十三丁目)
(旭町七百九十四丁目)
(旭町七百九十五丁目)
(旭町七百九十六丁目)
(旭町七百九十七丁目)
(旭町七百九十八丁目)
(旭町七百九十九丁目)
(旭町八百丁目)
(旭町八百一丁目)
(旭町八百二丁目)
(旭町八百三丁目)
(旭町八百四丁目)
(旭町八百五丁目)
(旭町八百六丁目)
(旭町八百七丁目)
(旭町八百八丁目)
(旭町八百九丁目)
(旭町八百十丁目)
(旭町八百十一丁目)
(旭町八百十二丁目)
(旭町八百十三丁目)
(旭町八百十四丁目)
(旭町八百十五丁目)
(旭町八百十六丁目)
(旭町八百十七丁目)
(旭町八百十八丁目)
(旭町八百十九丁目)
(旭町八百二十丁目)
(旭町八百二十一丁目)
(旭町八百二十二丁目)
(旭町八百二十三丁目)
(旭町八百二十四丁目)
(旭町八百二十五丁目)
(旭町八百二十六丁目)
(旭町八百二十七丁目)
(旭町八百二十八丁目)
(旭町八百二十九丁目)
(旭町八百三十丁目)
(旭町八百三十一丁目)
(旭町八百三十二丁目)
(旭町八百三十三丁目)
(旭町八百三十四丁目)
(旭町八百三十五丁目)
(旭町八百三十六丁目)
(旭町八百三十七丁目)
(旭町八百三十八丁目)
(旭町八百三十九丁目)
(旭町八百四十丁目)
(旭町八百四十一丁目)
(旭町八百四十二丁目)
(旭町八百四十三丁目)
(旭町八百四十四丁目)
(旭町八百四十五丁目)
(旭町八百四十六丁目)
(旭町八百四十七丁目)
(旭町八百四十八丁目)
(旭町八百四十九丁目)
(旭町八百五十丁目)
(旭町八百五十一丁目)
(旭町八百五十二丁目)
(旭町八百五十三丁目)
(旭町八百五十四丁目)
(旭町八百五十五丁目)
(旭町八百五十六丁目)
(旭町八百五十七丁目)
(旭町八百五十八丁目)
(旭町八百五十九丁目)
(旭町八百六十丁目)
(旭町八百六十一丁目)
(旭町八百六十二丁目)
(旭町八百六十三丁目)
(旭町八百六十四丁目)
(旭町八百六十五丁目)
(旭町八百六十六丁目)
(旭町八百六十七丁目)
(旭町八百六十八丁目)
(旭町八百六十九丁目)
(旭町八百七十丁目)
(旭町八百七十一丁目)
(旭町八百七十二丁目)
(旭町八百七十三丁目)
(旭町八百七十四丁目)
(旭町八百七十五丁目)
(旭町八百七十六丁目)
(旭町八百七十七丁目)
(旭町八百七十八丁目)
(旭町八百七十九丁目)
(旭町八百八十丁目)
(旭町八百八十一丁目)
(旭町八百八十二丁目)
(旭町八百八十三丁目)
(旭町八百八十四丁目)
(旭町八百八十五丁目)
(旭町八百八十六丁目)
(旭町八百八十七丁目)
(旭町八百八十八丁目)
(旭町八百八十九丁目)
(旭町八百九十丁目)
(旭町八百九十一丁目)
(旭町八百九十二丁目)
(旭町八百九十三丁目)
(旭町八百九十四丁目)
(旭町八百九十五丁目)
(旭町八百九十六丁目)
(旭町八百九十七丁目)
(旭町八百九十八丁目)
(旭町八百九十九丁目)
(旭町九百丁目)
(旭町九百一丁目)
(旭町九百二丁目)
(旭町九百三丁目)
(旭町九百四丁目)
(旭町九百五丁目)
(旭町九百六丁目)
(旭町九百七丁目)
(旭町九百八丁目)
(旭町九百九丁目)
(旭町九百十丁目)
(旭町九百十一丁目)
(旭町九百十二丁目)
(旭町九百十三丁目)
(旭町九百十四丁目)
(旭町九百十五丁目)
(旭町九百十六丁目)
(旭町九百十七丁目)
(旭町九百十八丁目)
(旭町九百十九丁目)
(旭町九百二十丁目)
(旭町九百二十一丁目)
(旭町九百二十二丁目)
(旭町九百二十三丁目)
(旭町九百二十四丁目)
(旭町九百二十五丁目)
(旭町九百二十六丁目)
(旭町九百二十七丁目)
(旭町九百二十八丁目)
(旭町九百二十九丁目)
(旭町九百三十丁目)
(旭町九百三十一丁目)
(旭町九百三十二丁目)
(旭町九百三十三丁目)
(旭町九百三十四丁目)
(旭町九百三十五丁目)
(旭町九百三十六丁目)
(旭町九百三十七丁目)
(旭町九百三十八丁目)
(旭町九百三十九丁目)
(旭町九百四十丁目)
(旭町九百四十一丁目)
(旭町九百四十二丁目)
(旭町九百四十三丁目)
(旭町九百四十四丁目)
(旭町九百四十五丁目)
(旭町九百四十六丁目)
(旭町九百四十七丁目)
(旭町九百四十八丁目)
(旭町九百四十九丁目)
(旭町九百五十丁目)
(旭町九百五十一丁目)
(旭町九百五十二丁目)
(旭町九百五十三丁目)
(旭町九百五十四丁目)
(旭町九百五十五丁目)
(旭町九百五十六丁目)
(旭町九百五十七丁目)
(旭町九百五十八丁目)
(旭町九百五十九丁目)
(旭町九百六十丁目)
(旭町九百六十一丁目)
(旭町九百六十二丁目)
(旭町九百六十三丁目)
(旭町九百六十四丁目)
(旭町九百六十五丁目)
(旭町九百六十六丁目)
(旭町九百六十七丁目)
(旭町九百六十八丁目)
(旭町九百六十九丁目)
(旭町九百七十丁目)
(旭町九百七十一丁目)
(旭町九百七十二丁目)
(旭町九百七十三丁目)
(旭町九百七十四丁目)
(旭町九百七十五丁目)
(旭町九百七十六丁目)
(旭町九百七十七丁目)
(旭町九百七十八丁目)
(旭町九百七十九丁目)
(旭町九百八十丁目)
(旭町九百八十一丁目)
(旭町九百八十二丁目)
(旭町九百八十三丁目)
(旭町九百八十四丁目)
(旭町九百八十五丁目)
(旭町九百八十六丁目)
(旭町九百八十七丁目)
(旭町九百八十八丁目)
(旭町九百八十九丁目)
(旭町九百九十丁目)
(旭町九百九十一丁目)
(旭町九百九十二丁目)
(旭町九百九十三丁目)
(旭町九百九十四丁目)
(旭町九百九十五丁目)
(旭町九百九十六丁目)
(旭町九百九十七丁目)
(旭町九百九十八丁目)
(旭町九百九十九丁目)
(旭町一千丁目)


荷揚場
東京都衛生試験所
木の橋
東止
永久橋
新永久橋
竹相崎町箱田町会
(餅菓子)
(夏でもまっくろ)
巴屋志
井上
伊藤商
鈴木
弁護士
近藤
プラタナス並木
(箱崎西部町会)
松の湯(日本湯)
銭湯
露木酒店
小林八百ヤ
塚田
松脂倉庫
高木ハイヤー
大黒屋(乾物)
小泉(米ヤ)
小島(半てんヤ)
檜辰倉庫
安藤檜辰
伊藤
鉄くずヤ
竹相崎川
ヤマサ醤油倉庫
荷揚場
大竹工務店
広ヤ倉庫
(電気工事ヤ)三興社
坂本歯科
今井(肉ヤ)
関本(茶ヤ)
竹内回漕店
坂口(タバコ文具)
加藤(旗ヤ)
片桐
村山(炭ヤ)
分倉庫
ガレージ円タクハイヤー三村
平沼月望
大塚
保井(仕立ヤ)
久保
八百市石井
宮田宮田(米ヤ)(酒ヤ)
(今は人形町)
東洋防水倉庫
松沢
松沢借家
石木
木下
倉庫
佐久間
京屋(今川焼)植田
大塚クリーニング
浅井
防水布商会高林
毎月九日には岡本回漕店側に縁日が出た。
回漕店岡本
石川
(床ヤ)
今井
(便達社)
鈴木
山田
(印刷)
安藤
(家庭薬局生きたヒルを売っていた)
横山
矢郷
中島オール
東洋防水製

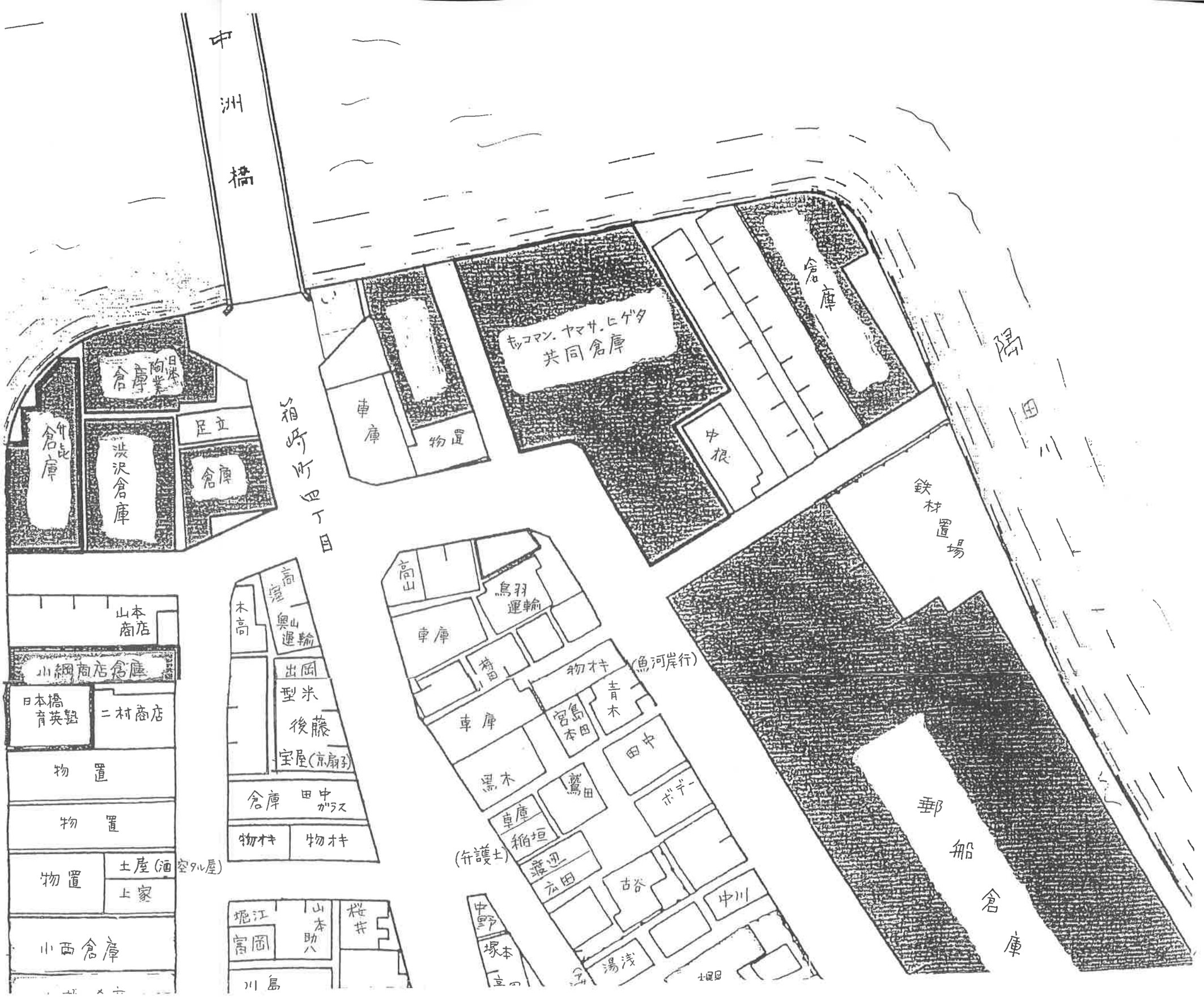

(3)
土州橋
箱崎川
荷揚場
東京都衛生試験所
郵便局
笹屋商会(タイル屋)
物オキ
村松石綿
野口
佐藤(床ヤ)
升喜倉庫
福寿
皆川酒店
(餅菓子)
(ツボ焼ヤ)(自転車)
杉本
岩瀬
木島
センベヤ
七條洋紙倉庫
金木
黒須(米ヤ)
村松
広瀬
飯田
増田工務店作業場
箱崎町四丁目
夏目自動車の車庫
結城運輸の車庫
補谷(防水布)
山田
福多屋酒ヤ
平野
安沢
石川
坂本
元吉
ふり原
道の道場
小星川
田上
杉田駄菓子
大屋
平沢
菅野
佐藤
江森
堀田
中田(鶏)
石原
島本
島本
木村
林
兼古
庚根
栗田原
米炭ヤ
島
魚万
タバコヤ
渡部
横山
西山
笠井
沼崎
立川彫刻
鈴木
小管
浅井(左官ヤ)
福田(豆腐ヤ)
太田
野辺
ミガキ大将であった男の子が三人いて
河野医院
通称法華さん
菊地(長男の説郎さん)
おしか様を飾り花まつりには毎年買合のは箱崎音頭の作詞者)
(夏でも帽子をかぶらないで
まっくろな顔でテンビンを担いで
元気を表していた)
(定刑ヤ)
ジョウイ
相崎町四丁目
(新聞の元版ヤ)
(経線ヤ)(台板ヤ)紙の
名物紅白万頭
巴屋そば屋
志賀
長沼医院
三宅
(お菓子)
郡司
有月荘
吉野(建具ヤ)
福本
佐々木印刷所
岡田
石山
若林
野花
藤村工務店
長島
藤田
笹家(和菓子)
井上
立木
伊藤商店
島
福塚田
阿部
佐久間
増谷
浦辻内藤工務店
箱崎町箱西町会
箱崎三丁目町会
鈴木
近藤
弁護士
往出弁当
山芳
斉藤(タタミヤ)
洋服仕立・修繕
箱崎アパート
増谷
中島
高橋
斉藤
湯本(炭ヤ)
野中
鈴木文具店
堀田
湯浅ペンキ
源馬(丸鋸ヤ)
横林社(印刷ヤ)
(ノコギリ工場)
○丸い大きな水槽が有り
金魚やメダカが泳いでいた
箱崎町箱四町会
松の湯
銭湯
木ハイヤー
黒屋(乾物)
泉(米ヤ)
小島(半てんヤ)
箱崎西部町会
プラタナス並木
箱崎町三丁目
岡本回漕店
毎月九日には縁日が出た。
(床ヤ)
石川
今井
(便達社)
鈴木
山田
(印刷)
安藤
(家庭薬局
生きたヒルを売っていた)
横山
矢郷
中島オール
山田
鉄棒
ブランコ
サルスベリ
トイレ
砂場
スベリ台
箱崎尋常小学校
桐の木
三宮金次郎
箱崎公園
出入口
吉田松陰
屋上に花壇
鉄棒
更屋
水
屋上にタヌキが1匹
酒井
市川
戸田
大熊
久保田
田所洋服
藤岡米ヤ
三州屋
的場
(アンコヤ)
中田嶌
(ためきの置物)
箱崎三丁目町会
箱


佐藤回漕店
山岸ガラス
村松倉庫
丸勝工場
山崎魚屋
丸勝本社
クスリ
岩瀬縫製屋
アラモノヤ 尺見
タバコヤ 多部
(魚条)
中島リード 製作所 (ミシン)
自転車 坂口
小林鬼平
吉田
小金井
黒田
花岡第二自動車工場
丸三商会
須合印刷所
本箱十 長田
桜庭染物
タバコヤ 武田
車庫
日本運輸会社
(伊藤)
菓子製造 梅林堂
藤森印刷
印刷所 浅倉
ワラ縄 山田
大庭
日本海事検定協会出張所
小池
三倉屋回漕店
渡瀬建具
印刷所
箱崎町四丁目
陽田
林
岡島
大熊
駄菓子 鈴木
小川紺屋
後藤
細川
中央ミルクプラント (牛乳)
富塚 (シロップ屋)
物置
12
上家
トロッコの線路
出入口
1階車庫
2階 税関 床や
D4
D5
171
出入口
神輿
小屋
消防小屋(手押の消防ポンプ 東神号の倉庫)
火災報知機
いちずくの木
(及川の母が 末期の実を砂糖で煮てくれた)
東神

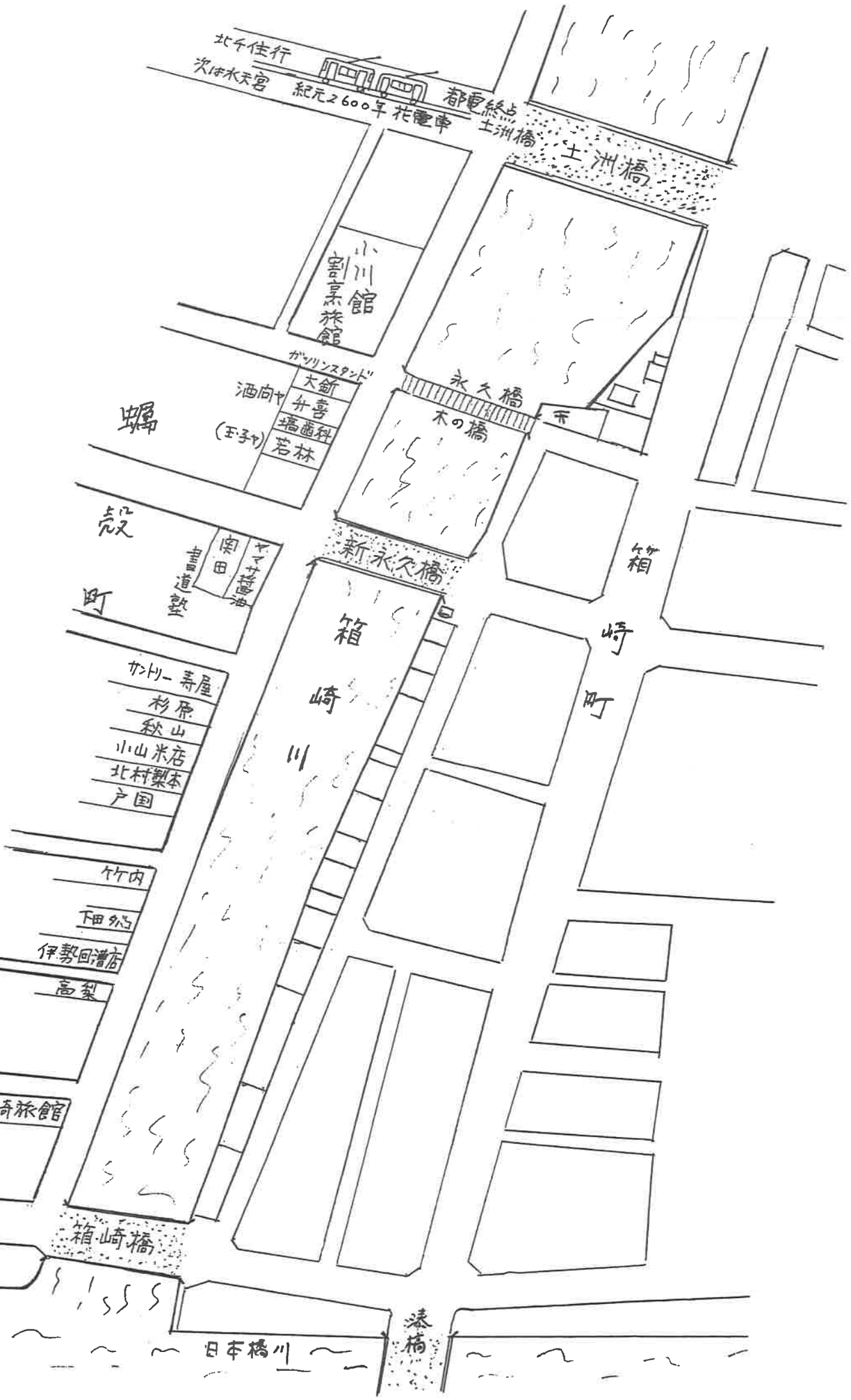
6


物置
物置
土屋(酒空タル屋)
上家
小西倉庫
近藤倉庫
近藤倉庫
物置
青木
物置
北島 スミや
井上
倉庫 上野兵松 ガラス問屋
物置
物置
渡辺商店
会田 駒野
森山 大賀志
寺田(産婆)
長谷川洋服ヤ
ヤマゴシ 経布ヤ
村上 手塚 タバコヤ
(山城)
(乾物ヤ)
木津ウユ
八大龍王
仁丹のカンバン
交番
林オキバ 土木部
井洋服ヤ
(おっちゃんと言うガキ大将の家)
矢郷運送店
鈴木
(テント屋)
倉庫 田中ガラス
物オキ
物オキ
堀江 富岡
山本助八
桜井
川島
堀内
岩城ガラス 片山
池元
関根
小峯(米や)
久保タイヤ 加登
中野
塚本 高田
(お産婆さん)
大西
渡辺
広田
浅井
西村
(アカリ ヤミ屋)
(弁護士)
古谷
中川
湯浅
櫻湯
(駄菓子屋 松丸)
屋
(矢藤鉄管店)
(うなぎの卸し)
大川 寺島
藤井 矢口
長谷川 安西
銀川 村上
船頭さんの家
(自動車修理)
尾島
内藤 倉庫
増田
岡田
山中
東京郵船
荷扱会社
新堀 照蔵
(新熊回漕店)
郵船倉庫
隅田川
武子香
浅樽見
中島
十重田
三井田
石井
村元
橋本
小島 クリーニング
宝田
村上
斉藤
北山 城北運輸
(薬問屋)
箱崎町四丁目
林オキバ 石福
清水
石福蒲鉾店
町会事務所
倉庫
中堀
内野印刷
醍醐
辻
若林
(2階に三目山大関という力士が住んでいた)
伊藤新太郎(五段)
市会議員 竹内岩吉
安藤 料理仕出しや
成田 針谷 佐山
剣道の道場
田丸屋(酒屋)
猪子運送店
安藤住居
化粧回し作っていた
位牌 正一 箱崎稲荷大明神
箱崎 ご神木 黒コゲ
画家 聖龍 平子
アイヌの絵
アキノ海料理屋 木村
床屋 真鍋
関口 米屋
潮田組 回漕店
村田車庫
(箱崎小学校の先生)
(双葉山の七十連勝を止めた力士の店)
南川薬局
あつ食堂 みや
そば屋
クスリヤ 山の内家
南川 (辻田)
(初馬の時、幟旗を揚げ、山車の太鼓をたたいた。子供には菓子をくれた)
山の内事務所の辻田さんに地代を届
事務所(四丁目土地管理組合)
(草履屋)
中村木工場
平田電気
斉藤
会田 影山
(弁護士) 増岡
タバコヤ 炭や
木村洗濯ヤ
住居
栄楽軒 料理ヤ
鈴木(酒ヤ)
平野
炭や 佐藤
佐藤
加藤
ミルクホール
喫茶店 守江
万年屋回漕店
桜回漕店
牛山
三和
亀田
高水
結城回漕店
(弘養舎 早速印刷所)
倉庫
郵船運輸会社
近海郵船株式会社 東京支店
東京税関支署

7

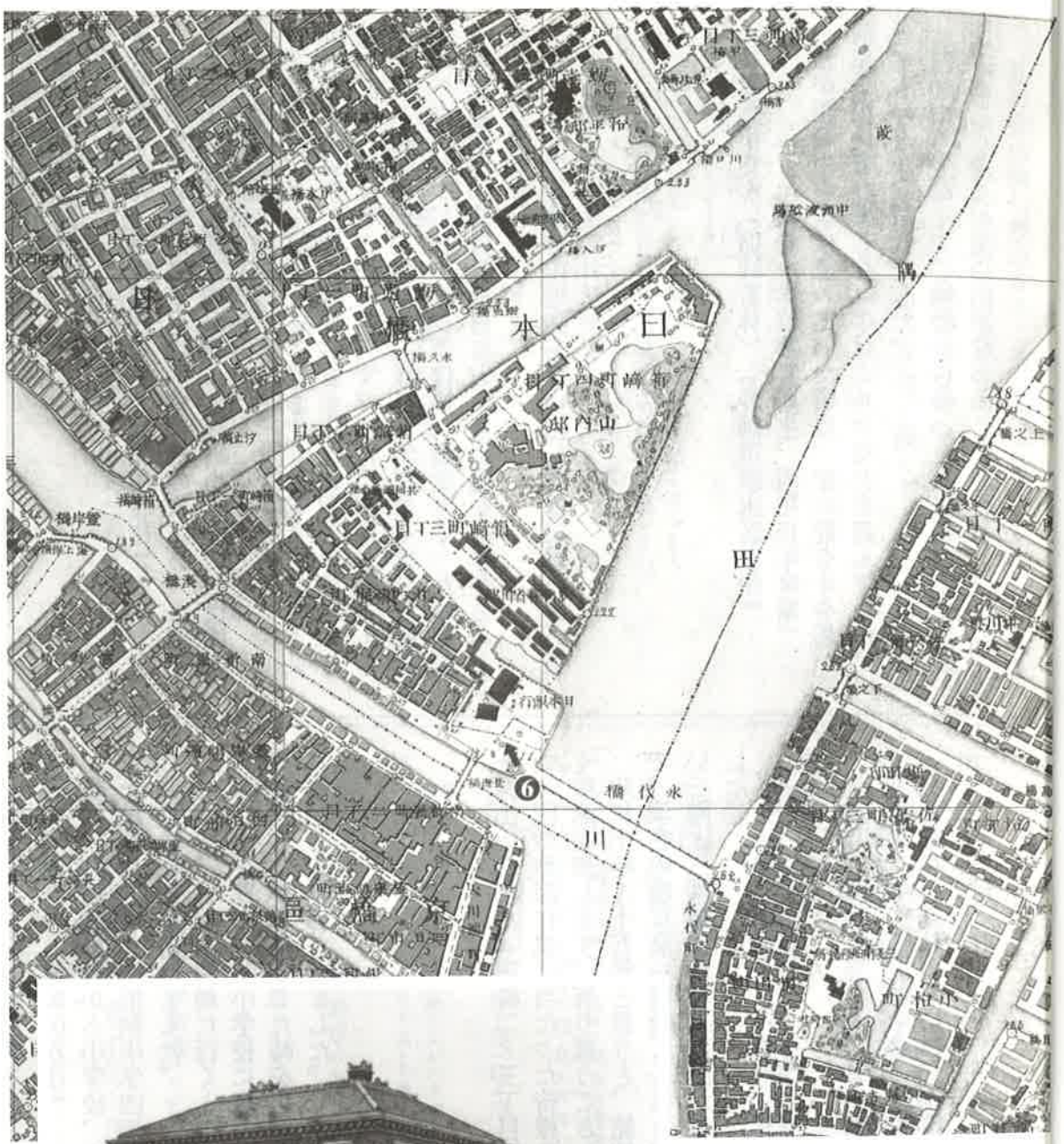

中洲橋
箱崎町四丁目
日本陶業倉庫
竹比倉庫
渋沢倉庫
足立倉庫
車庫
物置
モッコマン・ヤマサ・ニゲタ共同倉庫
倉庫
中根
陽田川
鉄材置場
山本商店
小網商店倉庫
日本橋育英塾
二村商店
物置
物置
土屋(酒空タル屋)
上家
小西倉庫
高宮
奥山運輸
出岡
型米
後藤
宝屋(京扇子)
倉庫 田中ガラス
物オキ
物オキ
堀江
富岡
山本助八
桜井
高山
車庫
鳥羽運輸
横田
物オキ
(魚河岸行)
車庫
宮島本田
青木
墨木
田中
鷲田
ボデー
(弁護士)
草原
稲垣
渡辺
立田
古谷
中川
中野
堀本
湯浅
郵船倉庫

8


北千住行
次は氷天宮
紀元2600年 花電車
都電終点
土洲橋
土洲橋
小川館
割烹旅館
ガソリンスタンド
大新
酒向ヤ
弁喜
塗画科
(玉子ヤ)
若林
蠣
永久橋
木の橋
殻
町
新永久橋
箱
崎
町
箱崎川
カントリー寿屋
杉原
秋山
小山米店
北村製本
戸国
竹内
下田外
伊勢回漕店
高梨
川崎旅館
箱崎橋
日本橋川
湊橋

箱崎あれやこれや

参謀本部陸軍部測量局



◆日本銀行（日本建築学会蔵）6

箱崎の隅田川近くにあった日本銀行は、明治15年、国庫金出納の取扱いや銀行券発券の特権をもって設立された中央銀行である。この建物は、もともと北海道開拓使（明治15年廃止）の物産売捌所として使われていたものである。明治29年、日本銀行が常盤橋東詰）に移転した後は集会所などとして使われていたが、関東大震災で焼失した。

【思い出話】

★久米尚子さん（旧姓宮内久子）『浦和在住』
昭和六年に箱崎町二丁目に大きな桜の木があった家で生まれました。兄妹五人がみんな箱崎小学校でお世話になりました。私はその末っ子です。
的場さん（あんこ屋さん）の斜め前に町会のおじさんが住んでおられ、寒い季節になると火の用心の拍子木を打って回ってくれた思い出。すぐそばの川から聞こえるポンポン蒸気の音、夏祭り、縁日、学校のそばの文房具屋のヘヤーピン、夏のラジオ体操、講堂でやった映画会、小学校の屋上から見た夕日など本当に懐かしさがこみ上げて参ります。
焼ける前の箱崎町の地図を思い出しては、遠い遠い思い出をたぐり寄せております。

★林登美子さん（旧姓若林）『静岡市清水区在住』
〔箱崎小学校第31期生、昭和15年卒業〕
私が箱崎小学校に通っていた頃は、家の前を牛や馬が荷車を曳いていました（牛はミルクなどを運んでいた）とてものどかな時代でした。
自動車も少なくて、学校から帰ったら箱崎公園でお友達と楽しく遊んだ思い出がなつかしいです。

★石塚孝雄さん『目黒区在住』
私は、箱崎幼稚園から小学校、すぐに葛飾中学校になった校舎に入学し、旧制中学四年までずーっと連続して同じ校舎に通い続けました。
そこで、いつも箱崎に行くと、学校の正門が昔と変わらないままなので、小学校に通った時や、中学校で戦時中敬礼してから登校した時を思い出し、昔のままの正門を懐かしく眺めてきました。

★神山敏夫さん『箱崎二・三丁目町会在住』
今回の地図作成に当たった皆様のご苦労、ご尽力に深く敬意を表します。有り難うございました。
昭和十年～十五年と言うと、箱崎小学校の小学生時代で、現在の様な高い建物ビルなどが町内になく、せいぜい二階・三階建ての木造建築が多い町で、周囲も同様でした。
勝どき橋が完成して、時間で開閉するのが、小学校の屋上より見えました。
町内は、住宅も多くありましたが、梅の湯、久世稲荷の前の通りは、商店が多数あり結構賑やかでした。
久世稲荷の祭礼の日には、湊橋通りには縁日、夜店が出て、子ども達は楽しみでした。

私の家の隣に渡辺さんと言うおばさんがやっていた洋食惣菜屋がありました。よくコロッケを買いに行きました。子どもが行くと、ポテトフライをおまけしてくれた事も思い出します。コロッケは、硬くてとても美味しく懐かしく思い出します。

箱崎の昔し話

その一 ヒロヤス・ヒロユキ・ヒデオの三人は塾へ行くとき、永久稲荷の宮司さんが油揚げを二枚お皿に並べて、恭々しく祠の前にお供えするのを何度も見かけました。
そして帰りにはお皿は空になっていました。
そこで三人は狐を見たさに夏のある日、親に無断で塾をサボってしまいました。
中四センチの長い板を三センチ間隔で打ちつけた塀なので中が良く見えます。
祠の前の油揚げはまだ供えたままです。
三人はしゃがんで待ちました。始めのうちは息を殺してじっとしていましたが、二十分三十分とたつうちに足がしびれてもう限界です。「一やめた！」「二やめた！」「三やめた！」としびれた足を引きずって永久橋を渡りダイキンの前の石垣を下りると、そこは中七十センチ位の干潟が出来ており、そこに立って弁慶蟹を捕えようとしましたが蟹は石垣の穴の奥へ逃げこんで捕えられませんでした。
そこへ暑いさなか女の人が三人日傘をさして来ました。
「あっ！お母さんだ、橋の下にかくれろ！」
永久橋を渡って来る下駄の音がゴトゴトと頭の上に聞こえました。
「男の子は無鉄砲だから心配ねー！」
「そうねー」
「本当ね」
橋の下に子供たちが隠れているのも知らずお母さんたちはまた子供たちを捜しに出かけました。
メルヘンの世界みたいで今はほんとに懐かしいです。

その二 三井の屋上にお稲荷様があり、初午の祭りに子供達にお汁粉やお菓子をくれた。
屋上で遊ばせてもらった事など思い出します。

その三 箱崎稲荷さんでは初午の時、幟り旗を立てて山車の太鼓を叩き、お菓子の小袋を子供達に配った。

その四 永久稲荷さんは夜九時になると大太鼓を叩いた。
親は子供に「太鼓が鳴ったからもう寝なさい」と言った。

その五 箱崎では毎月九日に岡本回漕店の所から湊橋の手前のガソリンスタンド位まで夜店が片側に出た。

その六 はこざき赤丹 松の湯・梅の湯・桜湯と揃っていた。

その七 魚辰？てんぷら油に火が入り昭吾ちゃんのお父さんと東神号のエンジンポンプを二人で出した事があった。

その八 山田さんの二階に新婚のお巡りさんが間借りしていた。

その九 西村（大阪屋）の君子さんがお嫁に行く前に七輪でお好み焼をご馳走してくれた。おいしかったなー！

その十 前田組の「弁」は新城一のがき大将？だった。

その十一 鈴木潜水店の進二（しんちゃん）俊男（としちゃん）はメンコとベーゴマの名人だった。

その十二 及川のお母さんが末熟のいちじくの実を砂糖で煮てくれた。

『はこざき昔話』

★箱四　久保常七さんの話（明治三十五年生）〔故人〕

私の若い頃は、まだ中洲橋もなかったし、清洲橋だってまだありませんでしたよ。だから私の家から、以前足立さんという自動車の修理屋さんがあった辺りは箱崎のどんずまりだった訳ですょ。それから郵船倉庫には毎日外国からの輸入品がダルマ船から陸揚げされたり、輸出の荷物が積み込まれていました。三井倉庫はその頃、東神倉庫と言って、やはり大川から荷物を出し入れしていたからね。だから、この辺はそんな荷物を扱う回漕店が二、三十軒はあったと思いますょ。その名残りで今でも運送屋さんが沢山あるでしょう。万年屋回漕店さんも、その頃からありましたね。

人形町の方から帰って来ると、土州橋が見えてくる。そして、空気がはっきりと変わるんですよ。海の風というか、川の風と言うか、とても気持ちのよい風なんですよ。何か港町と言った気分の町でしたね。

戦後まもなく、キティー台風というのがあってね、その時は床上まで水が上がってね、大変でしたよ。何しろこの辺は箱崎でも一番低い所でしょう。堤防も今より少し低かったんでしょうね。

私が十五歳の時でした。親戚が中洲に居て、初めて歌舞伎を見せてもらったんですよ。その頃、真砂座という立派な芝居小屋が中洲にあったもんだから、今じゃー考考えられないような町だったなぁ。

（はこざき新聞）

★箱四　小林昇さんの話（大正十三年生）〔故人〕

私はここで生まれて、ここで育ったんだけれど、けっこう悪ガキだったから、学校から帰るとカバンをおっぽり出して、夕方になるまで外で遊んでたね。バッタ取りに佃の渡しに乗って石川島の方へ行ったり、越中島の方へも行ったしな。それからデパートめぐり。勿論、どこへ行くにも歩いてさ。

それから、郵船倉庫の船着き場に留まっているダルマ船から飛び込んで泳いで、対岸の小野田セメントまで大川を横断したもんだよ。ところが、半分から向こうは潮の流れが早く随分と流されたなー。時々水上警察が来るんだよ。その頃の水上警察は、手漕ぎのボートだったんだ。今じゃ考えられないね。勿論、海パンなんてシャレタものは無い。黒のイッチョウフンドシでね。知らないだろう。前から後ろに黒い布をまたがして、細い紐を回して、それを結ぶだけなんだ。家の親父が、こわい親父でね。知らん顔して帰って来るんだが、毛が濡れてるだろう、すぐにばれちゃってひっぱたかれたんだよ。

ベーゴマもよくやったな。昔はリンゴの木箱があってね、あとはござ一枚で道場荒らしだよ。ベーゴマを削るのが、また面白いんだ。竹竿の先にベーゴマをくっつけて、清洲橋の所でザー―と押して走るんだ。今の子供と随分ちがうな。まだ〳〵いろんな遊びがあったよ。

（はこざき新聞）

★奥村道子（旧姓　村田）さんの話

⑴箱崎小学校へ通い始めた頃、角のお茶屋さんのお店に『天国と地獄』の掛軸が掛かっており、始めのうちは怖くてそこを通る時は、いつも下を向いて歩きました。そのうち少しづつ見るようになり、大分経ってから暫く立止まって見るようになりました。上の方にはきれいな女の人がいて、下の方には金棒を持った鬼に追いかけられる人がたり、火の上の釜の中に人が入っていたりした図を見ながら、悪いことをすると怖いなぁと、その度に思いました。又、外で十銭のお金を拾い母に見せた時、「交番のお巡りさんの所へ持って行きな」と言われ、湊橋の交番へ行った時「いい子だね、それはあげるよ」と頭を撫でてくれました。親には何も言われなかったけれど、自然と善悪の判断が身につく時代だったように思います。

⑵お祭りで家の前をお神輿が通り始めた頃、知らないお婆さんが「二階へ上がらせておくれ」と言って、二階の窓の所でお酒を飲みながら、最後までお神輿を見ていました。また、お神輿が来ると、姉はバケツを持ち出し、家の前の防火用水桶から水をすくっては勢いよく、ぶっかけます。用水桶にはボーフラなど泳いでいます。私はお神輿をかついでいる人の口の中にボーフラが入るのではないかと心配して見ていました。

⑶夏休みになると、何回か辰巳屋さんの小父さんの舟でお台場へ連れて行って貰いました。十時頃父に「海へ行くから早く仕度をしろ」と言われ、急いでおむすびを作ってもらい、水着を持って舟で新川から永代橋の広い川へ出てお台場の近くまで行きます。島には何にもなく、かすかに錆びついた砲台のようなものがあったような？

まだ泳げないので、立っていられる位の浅い所で、足で砂をほじくって貝を探したり、水遊びするだけです。一度、水に入った途端、小父さんが舟から立ち小便をし始め、逃げるのに大変でした。今思えば、舟にトイレは無く、島にも上がったことがなく、私自身も海に入っている間に用を足したと思います。二～三時間遊んで帰りは、永代橋をくぐって更に進と、どの辺りだったろうか見え始めた四本煙突（おばけ煙突）は脳裏に浮かびます。

ちょっと立話

戦前「箱崎にも商店街があったんだってね」。あったんだよ。もと二丁目の中通りだ。両側合わせて三十軒ほどの店屋が並んでいてね。下町のどこにもあった小さな商店街って感じだ。八百屋、花屋、パン屋、豆腐屋それに風呂屋もあってね。すぐ横丁に魚屋、洗い張り屋、産婆もいたし、経師屋もいて、職人も多かった。ブリキ屋にミルクホール、駄菓子屋の前がお稲荷さんで、

そこの縁日は毎月八日だったか、湊橋通りに露店が出て賑わったもんだ。

たった一軒だけど場末のカフェーがあって、カタカナの名前がついて、色のついた電球がいつも寒そうに点いていたな。ときどきキレイなお姉ちゃんが、口紅真っ赤につけて、薄暗い小窓の向こうから、退屈そうに外通りを見つめていたよ。そうだ！　揚げ物屋のババァが作ってたコロッケは特に安くてうまかったな。晩のおかずに皿を持って使いによく行かされたもんだ。油屋は計り売りで、一升ビンぶらさげて行ったよ。ガキ供の溜まり場は、なんだって紙芝居屋か駄菓子屋だ。

真夏の頃は、駄菓子屋のアイスキャンディーが一番だった。そこのオバチャンがこさえるアイスキャンディーは忘れられないなぁ。色のついた砂糖水を細長いフラスコに入れ、割り箸を突っ込んで、塩をまぶしたかき氷の桶へ入れ、その凍りつくのをワルガキどもは、汗かきかき輪になって辛抱強く待ってたもんだ。

やがて、フラスコの中が凍ってきて、子供等がざわつく頃、オバチャンはゆっくりと凍りついた割り箸をつまんで、フラスコを桶から抜き、バケツの中の水に浸してなにやら呟いて中身を引き出すと「ポン」と不思議な音がして「できたぁー」とガキどもは思わず叫んでしまったよ。アイスキャンディーをガッツイて食う奴は一人もいなかったな。ゆっくり舐めまわして、少しでも時間を稼いで、口の中が冷たくなるまで、楽しんでいたんだ。

今、そこんとこの通りは残ってはいるが、昔の面影はまったくないな。薬局が一軒開業してるだけだよ。

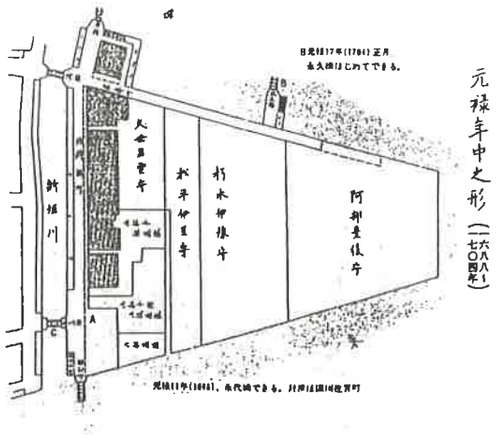
（はこざき新聞）

箱崎と永久橋とお稲荷さん

★ご隠居さん、熊さん、八さんの話

八「おーッと熊さん、久しぶりじゃないか」
熊「なに言ってやんで、昨日永久橋で：：」
八「あッ！そうだったなー、イヤー暑いね！」
熊「暑いのはお前さんの頭じゃねーか」
八「熊さん、いま永久橋って言ったネ」
熊「そーヨ、昔あそこに永久橋、あったろ」
八「ブー！　あそこにあったのは、新永久橋！」
熊「ナニ！　じゃー永久橋はどこに：：？」
八「永久稲荷の所にあったんすョ」
熊「八百屋とクリーニング屋がある前のか」
八「そうょ、昔はあそこが表通りだったとか」
熊「バカ言うな！　あんな小さな曲がり角がかい？」
八「その通り、だから昨日会ったのは新永久橋。あッ！　いいところにご隠居が来た」
隠「おや、熊さんと八さん、今日も暑いね」
八「そーなんですョ。熊さんが暑いのは私の頭だなんてひでーことを言うんですょ」

熊「ご隠居は永久橋がどこにあったか知ってます？」
隠「あー、よく知ってるょ。昔、日本湯という銭湯があって、向かいに米屋さんがあって、今は目につかないお稲荷さんがある曲がり角、あそこにあったのさ」
八「ですョねー！　箱崎第二公園の所にあったのは新永久橋でさ！」
隠「その通り。新永久橋が出来る以前に、あのお稲荷さんの所に木の橋が架かっていたんだ。わたし達が子供の頃はまだ渡っていたよ。かなり傷んでいて、どんどんと音がするから、ドンドン橋と呼んでいたよ」
熊「へー！　木の橋だったんですか、それで橋の名前をとって永久稲荷なんだ！」
隠「それは逆だョ。永久稲荷の名前をもらって、永久橋としたんだョ。永久稲荷は箱崎の中では一番古い史跡なんじゃーないかな」
熊「へー！　そんなに古いんですか？」
隠「大昔の箱崎は隅田川の三角州で、葦が生い茂っていたんだろうね。徳川幕府が江戸を開いて、この三角洲を埋め立てて、武士の下屋敷に当てられたのが、箱崎のはじまりなんだょ」
熊「さすが、ご隠居。その頃からお住まいだったんで？」
隠「いやいや、私が生まれるずーっと昔の話だよ。これは聞いた話だ。
永代橋と豊海橋は、元禄十一年（一六九七）に一緒出来て、永代橋は箱崎から深川佐賀町へと架かっていて、箱崎側を永代橋広小路と言ったそうだ。湊橋は延宝年間（一六七三〜八一）に出来たと言うが、箱崎の島に最初に架かった橋は崩橋（後に箱崎橋）といって寛永江戸図に記されているんだそうだ。そうそう永久橋は元禄十七年（一七〇四）の正月に出来たそうだ」



元禄年中之形（一六八八頃）

八「ご隠居さん、スゴイね！　よくそこまでご存じで」
隠「それ程でもないが、一応私も箱崎の住人のはしくれだからね」
熊「あっしも箱崎の住人のはしくれなんだが：：ハジクレかな？」
隠「永久稲荷と武家屋敷として当てられた朽木伊予守との関わりは詳しく知らないが、箱崎が埋め立てられた頃、この永久稲荷も創立された様だね。そ

の頃は、金比羅さんや庚申さんも合祀されていたらしいょ。江戸のどこへ行ってもあるものは、伊勢屋、医者、稲荷に犬の糞と言ったそうだから」

八「そう言や箱崎にも他にまだ幾つかお稲荷さんがあったなぁー」

隠「聞くところによると、永久稲荷もその頃は大変賑わっていたらしいょ。縁日には露店も沢山出ていたと聞いたよ」

熊「へーッ、今じゃ考えられないね」

八「まったくだ、あの裏道がねぇ」

隠「新永久橋と土州橋が架かると永久稲荷の回りの環境が大きく変わるという事で地元の有志が集まって、関東大震災の後の復興局長に陳情に行ったてーな事もあったらしいね。今の箱崎環境対策協議会のOB会みてぇなもんだな」

八「へぇー、いつの時代にも『住み良い町造り』をやっていたなー」

隠「今は深川八幡宮と言うが、昔は新川の霊岸島にあって、富岡八幡宮だったとか……」

熊「へぇー、八幡様はこっちに居たんですか？」

隠「当時の富岡八幡宮の例大祭には、永久稲荷の宮司がいつも大行列の先頭を行く馬上の神官を勤めていたとも聞いているんだよ」

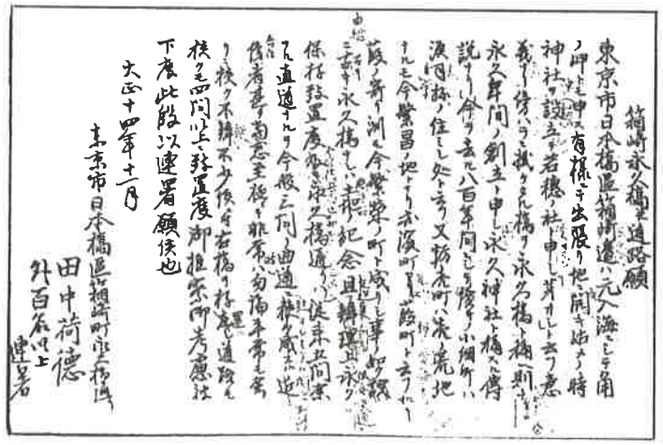
熊「へーッ、そりゃー初耳だ」

隠「歴史の年表によると、永久稲荷は平安時代の後期で一一一三年頃と言うから、いずれにしても古い史跡には違いないだろうねぇ」

熊「いやー、思いがけなく箱崎の歴史を勉強しちまったなぁ」

八「いやー、まったくだ……」

箱崎永代橋道路願



箱崎永久橋ヨリ道路願

東京市日本橋区箱崎町遠八元八海ヲ隔
ノ岬ヲ神ノ有橋ヲ出限リ把開キ始メノ時
神社ノ設立ヲ若橋ノ社ヲ申シ其ノ上ヲ意
義ノ儀ハラヲ拭ハラル橋ノ永久橋ノ橋ノ則チ
永久ノ間ノ創立ヲ申シ永久神社ト橋ノ傍
設ケ今ヲ元八百年同ヒラ後ヲ小網町
浜町ノ住ヒ処ヲ又新木町ノ米流地
ヲ今繁昌ヲ地ヨリ永浜町ヨリ路町ヨリ
陸ノ新ノ洲ヲ今繁栄ノ町ト成ル事如何
ニテモ永久橋ヲ祝ヒ記念ヲ且ツ橋理由ヲ
係ル設置度ヲ永久橋通ヲ候来ヲ同様
又通ヲルヲ今般ニ同ノ曲通ヲ候ヲ
候者ヲ菊意主旨ノ非常ノ如何ヲ事ヲ
ル候ヲ不詳不少候ヲ右橋ノ新道路ヲ
候ヲ西川ヨリ新設度御推察御考慮ヲ
下度此段以連署願候也

大正十四年十月

東京市日本橋区箱崎町四丁目
田中荷徳
外百名以上
連署

【箱崎の地名と歴史】

★箱崎の地名

中央区のほとんどは、江戸時代以降の埋め立てによって出来たもの。箱崎は江戸時代以前は隅田川が満潮時になると水面の下に沈んでいたところで、中洲と霊岸島にはさまれた島（洲）だったという。

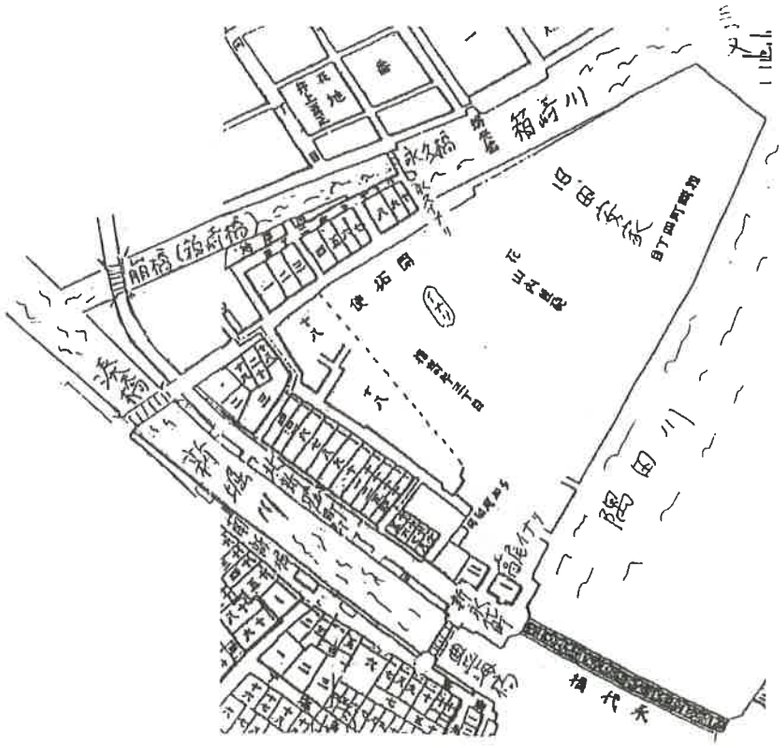
天正十八年（一五九〇年）、徳川家康が入府してから始めた埋め立てによって陸続きになり、寛永年間（一六二四～四三年）の江戸図によると、町ができ、大名屋敷などもみられる。

九州・福岡市東区の海岸に箱崎という地名があり、ここには筥崎宮（箱崎宮）のほか、九州大学などがあるが、この筑紫の箱崎の景色に日本橋の箱崎が似ていたところから呼ばれるようになったと言われる。

また、「箱崎」という池があったからという説もある。

★北新堀の地名

日本橋川の出口だった南北の新堀町については、そもそも新堀というのは文字通り新しく掘った堀の意味である。江戸最古の都市図で確認すると、その図にもほぼ同じ位置に「新堀」と描いてある。とすれば、かっての日本橋川の本流は今の亀島川だったことを物語っている。町名は新堀川（日本橋川下流）の北側に沿った町であることに因む。



★箱崎の古地図からみる歴史

江戸時代の幕末の文久二年（一八六二年）頃の地図面から。

上部は箱崎川、下部は隅田川で、左側の堀川は、ここ

では新堀川と記されているが、日本橋川の最下流である。
箱崎は隅田川の下流三角州を埋め立て、武家の下屋敷の用地となってたが、左上部に崩橋とあるのが後に箱崎橋と変わり、この地で一番古い架橋である。
箱崎一丁目は早くからあって、二丁目は天明五年（一七八五年）蔵河岸を埋め立てて出来たと記されている。この当時二・三丁目は見当らない。
新川堀の南は南新堀町（現在の新川町）、対岸の北側が北新堀町（現在の箱崎町）で、永代橋の西詰め火除けのための広小路になっていて、新永代町と呼ばれていた。
三角州の右側のとがった先に地形はないが、中洲があり、三つ叉と呼ばれ、隅田川船遊びの場所になっていたようである。後に埋め立てられ今の中洲町ができた。
昔、永久島と呼ばれていたこの箱崎地域も大半が武家屋敷用地で、永代橋際に徳川幕府の御船手組（現在の水上警察に当たる）の屋敷と船蔵があって重要な役割を担っていたようである。
町家は堀川に沿ってあり、年々回船と物流の拠点として発展して行った。

続いて、下段の図はスケッチした江戸名所図で、日本橋蛎殻町から箱崎川を挟んで、対岸の箱崎町を垣間見る事ができる。
右側の橋は永久橋で、その昔『船饅頭』（小船に乗って饅頭を売り渡るふりをして、客引きする下賤な遊女達）

永久橋
『江戸名所図』東京都立中央図書館東京誌料文庫

の出没する溜まり場。橋を渡ると、左側は大川（隅田川）が箱崎川と分かれる三つ叉、後に埋め立てられて現在の中洲町。三つ叉付近は、船遊びの中心地で、万治のころ仙台藩主伊達綱宗が吉原三浦屋の遊女高尾太夫を身請けし、船にて我が屋敷へ向かう途中、高尾がなびなかったのに立腹し、船中にて吊吊るし切りにしたとの通説がある。いわゆる「万治の事件」である。
その後宝永年間に至り、永代橋の北詰、徳川船手組の見廻りが川辺に打ち上げられた首級を見つけ、高尾の頭として手厚く葬った。今も残る高尾稲荷の起源である。
対岸左側の大きな屋敷は、徳川ご三卿の一つ田安家下屋敷、後に山内豊範の屋敷となる。永久橋東詰めの小さな建物は、どうやら永久稲荷の祠と思える。
手前中央横に架かる小橋は、位置からして蛎殻橋、ここの堀は明治後年埋め立てられて消滅した。

【高速道路で消えた箱崎川】

昭和四十七年首都高速道路六号線建設によって、江戸時代より運河として機能を果してきた箱崎川も、時代の流れに勝てず、四百年の歴史を閉じて埋められた。
首都物流水運の玄関口として永く利用されたこの川も陸上輸送の発展に伴い不必要と見なされたのだろう。
懐かしい写真を掲載します。

写真下から、永久橋、細長い橋は上水道の懸け橋（箱崎の水源）、中央に見えるのが土州橋、ややカーブして中洲橋より浜町川河口に渡る女橋、その向こうは清洲橋通りに架かる菖蒲橋。

一九五四年に撮ったこの写真、川に浮かぶ伝馬船がぎっしり並んで、当時の世相を偲ばせる。
新永久橋の手前に点在する船は、宿船と称し、ほとんど水上生活者の住まいだった。水上生活協同組合事務所らしき施設もあって、戦後食料や物不足時代、配給の基地ともなっていたようである。
戦後まもなく、昭和天皇がわざわざ視察にお見えになっている。
中央箱崎川の左が蛎殻町、右が箱崎地域ですが、図面の大半が黒く影になり判然としないのが残念です。
何とか判別出来る町並みも、現在ではすべて建て替えられ、今なお残っている建物は見当たらないようです。
中央に白い銭湯日本湯の煙突が一本、その先端が清掃局のゴミ集荷場で、ここから東京湾方面に向け、ダルマ船に積み替えて運んでいた。
清掃局処理場の跡地には、現在中央区立箱崎住宅が建ち、一階が箱崎コミュニティールームとして、地域に利用されている。
※江戸時代の古地図を見ると、箱崎川は隅田川の三つ叉（現在の中洲）より日本橋川に通じた堀川で、支流には浜町川や、蛎殻町側にはトウカンボリなど三つの細い堀があって、写真にはないが東側の小網町から箱崎に渡る箱崎橋（古くは崩橋と称した）、蛎殻町側に汐留橋、蛎殻橋、汐入橋、川口橋とあり江戸湾の湊町の面影を残している。

【土州橋】

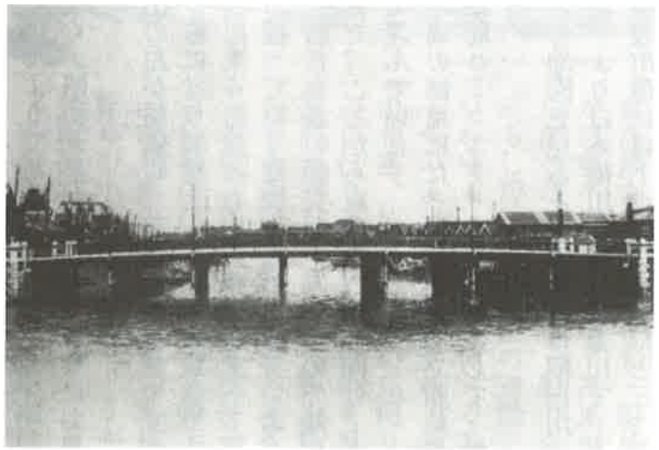
箱崎町と蛎殻町の間、日本橋川に土州橋という橋が架かっていました。

元、箱崎四丁目の辺りは徳川御三卿のひとつ田安家が一万三千坪の土地と屋敷を拝領していましたが、幕府崩壊後、明治初年に土佐高知の山内侯爵家が譲り受けました。山内家では、明治三十八年（一九〇五年）私財を投じて木橋を架け、橋名を山内侯の出身地土佐藩の土州から土州橋と付けました。

後、明治四十二年、東京市に寄付しました。大正三年三月に東京市は架け替えに着工し、大正四年五月に竣工しました。親柱台は常州産中花崗岩で全面小叩き仕上げ、上部に近く野面を表わし、中央に円形彫刻を施し、その上の方に橋名および竣工年月を彫り込み、本橋門口の一偉観でありました。工費一二万五一六七円。

大正年間、この橋と江東区北砂六丁目の丸八橋との間に乗客用の小型発動機船が運航されてしました。

昭和四十五年、箱崎川の埋め立てにより撤去されました。



「土州橋開通祝賀会記念」より。大正十四年

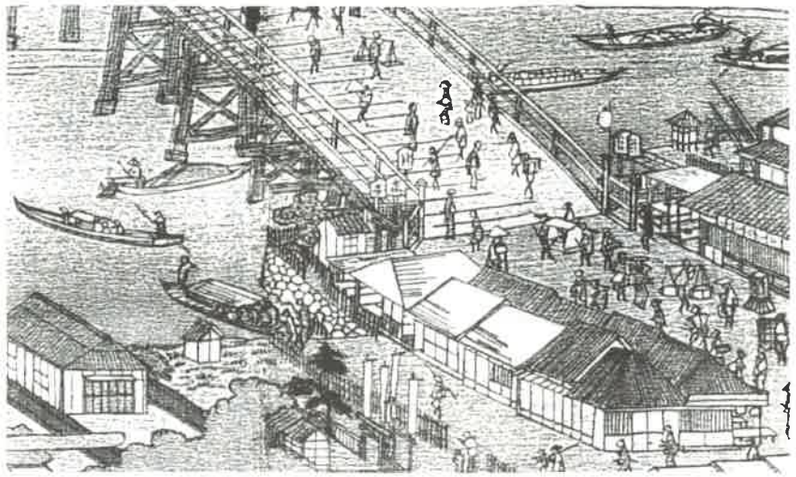
【名物永代団子】

「だんご」の話

むかし（大正以前）永代橋は、今の位置より川上で、豊海橋のある日本橋川の合流点の上流、隅田川より深川に架かっていた。

永代橋西詰め付近

下方に高尾稲荷神社　お参りする人影



日本橋川に沿って川岸問屋の前通りを、日本橋方面より深川に渡る幹線道路にあった。

湾内から江戸に入る大型船が橋桁に当たらないよう、日本橋川両岸の舟問屋へ貨物が運べるようになっていたようです。その永代橋の西詰（現在日本橋箱崎町）は深川側永代町に対して新永代町「広小路」と呼ばれ、江戸時代頻繁に起きた大火から橋の延焼を守るため設けられた火除地で、人の往来で終日賑わっていたようです。

上図の浮世絵は広重の描いた東都名所永代橋全図の一部を抜粋した西詰付近の様子で、文献によると、永代橋西詰南側の角は制札所があり、その西隣の水茶屋一軒を隔てて佐原屋と八幡屋とが相並んで元祖名代「永代団子」の看板を出していた。

天保の頃に「花より団子、永代株になり」などの句がある、と記されている。また、旧北新堀町は永代橋へかかる返路で、髪結い店が軒を連ねていたとも記されている。

「永代団子」は、当時永代橋の名物として、江戸中でもなかなかの評判を得ていたようで、江戸うまいもの番付表にものっていて、はるばる遠方より評判を聞いて、「だんご」を買い求めて行ったようです。

軒を並べた隣の水茶屋とのタイアップもうまくいって繁盛したものと伺われる。

広重が東都名所としてのこの永代橋西詰め付近を描写したのは、ここから眺める湾内の様子が気に入ったから

でしょう。

浮世絵原画は左図では右端三分の一がカットされていますが、そこには水茶屋の横から、日本橋川（新堀川）の最下流に架かる豊海橋と対岸の南新堀町、大川端町の一部が描かれ、遠く湾内の佃島と、大型の帆掛け船が数多く見られ、見晴らしの良い風景が克明に描かれております。

永代橋に向って広小路左側店並
左端が高尾稲荷神社

【お妾横丁のはなし】

戦前のこと、今の箱崎町6番地になりますが、湊橋通りの橋から東へ二つ目の横丁の路地を右に入った所に、誰が付けたのかお妾横丁なる処があったと聞きます。

私は、子供の頃の事なので、当時その横丁の名前については全く知りませんでした。数年前、今回の箱崎町の思い出につながる旧時代の復旧地図の作成を企画して取材中、先輩の女性から聞いた話が基になります。

私は、当時その辺をよく通ったものでした。間口一間半ほどの路地の入口に、この付近では珍しく風情のある格子戸の門があって、格子戸越しに覗き見えるその奥には、狭い通路をはさんで両側に木造二階屋の三軒長屋が向かい合ってあったなぁと、うろ覚えながら思い出します。

長屋のある通路の奥は、突き当たりで、そこの路地はいつもひっそりとして、人の気配はなく、各家の玄関の鴨居には、何かのお呪いの様なものが飾られ、軒先はいつも小綺麗に打ち水されていて、しなびた植木鉢など二つ三つ置かれてありました。どの家も閉ざされた窓は薄暗く、路地を吹き抜ける風も冷たく、特有の路地裏の香りを感じる様な佇まいの処だったと思います。

先輩から聞いた話だと、東京では街が一番美しく輝くといわれる夕方の黄昏どき、街燈の灯りがともる頃でし

ょうか、湊橋の袂あたりに人目を忍びながら気を配るようにして、小綺麗で粋な女が一人で、何気ないしぐさで人待ちしていて、橋の向こうに目をやっていました。しばらくして、そこから裕福そうな身なりをした男がやって来ると、あたりを気遣いながら、二人は何やらひそひそと言葉を交わし、そそくさと人目を避けながらくだんの横丁へ消えて行ったそうです。

近所の人は、きょうは幾日だからあの男はどこそこの旦那だなと、日程がばれていて判っていたようです。

たいがいは、日本橋川の川向こうの新川、霊岸島あたりの有名な酒問屋などの大店の旦那や番頭衆で羽振りをきかしてきたようです。

ときたま、そこに住む女たちが路地の奥の方で、昼間二人ぐらいで何か話しているところを見かけることもあって、夕方の姿とは別人の様に見えたとも聞きました。

当時の長屋は、関東大震災直後復興のため急造されたもので、震災以前とは造りも変わって、多少モダンになっていたようです。

安普請の家は、トタン葺きが多く、二階家の屋根の上には木組み物干場があって、当時下町では三階建て以上の建物は少なく、ほとんど家屋の高さの揃った街並みで屋根伝いでも隣家へ行けました。その物干場に上がると、とても見晴らしが良かったので、晴れた日は今よりも近くに富士山が見え、夜は降りそそぐ様な満天の星空を仰ぐことが出来、十五夜の晩には月見団子を供える絶好の場所でした。

正月の風が強く吹く日には、子供たちはそこから凧を上げ、あっちこっちの凧と競ったものでした。

くだんの長屋の物干場は、ほとんど使われた様子はなくて、たまに粋な手拭いが少々干してあったと聞きました。

（青木昭吾　記）

箱崎尋常小学校校歌

町田　櫻園
作詞・作曲

昭和１３年～１４年　箱崎小学校

職　員　一　同

荒野先生　谷山先生　兒富先生　會澤先生　安座間先生　遠藤先生　田邊先生

矢島先生　江塚先生　上野先生　渡邊先生　飯田校長先生　大串先生　押田先生　古屋先生　淸水先生

祭礼箱崎四丁目町会役員

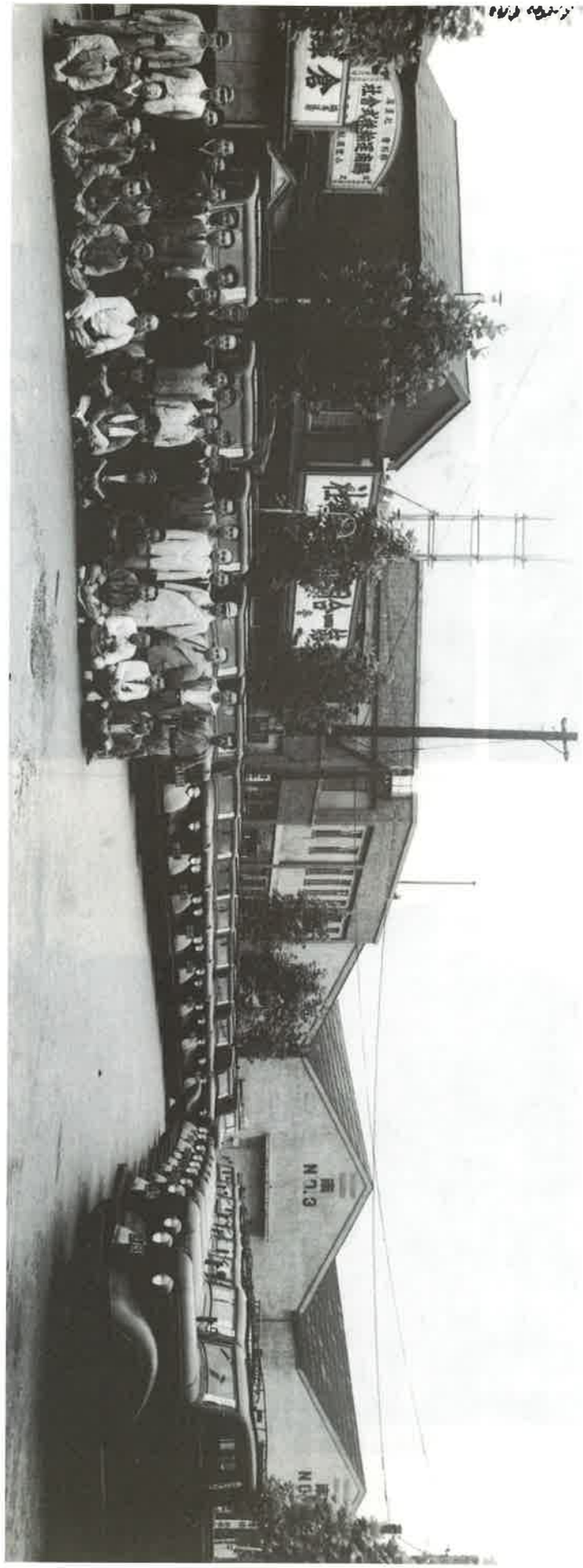
祭礼箱崎四丁目町会御仮屋

八幡様のお祭り風景
箱崎四丁目　オート三輪車速達
矢郷運送店の看板が読める。

八幡様のお祭り風景
箱崎四丁目　万年屋倉庫（右から左へ書いてある）
島嶼連盟倉庫（左から右へ書いてある）
の看板が読める。

お祭り風景

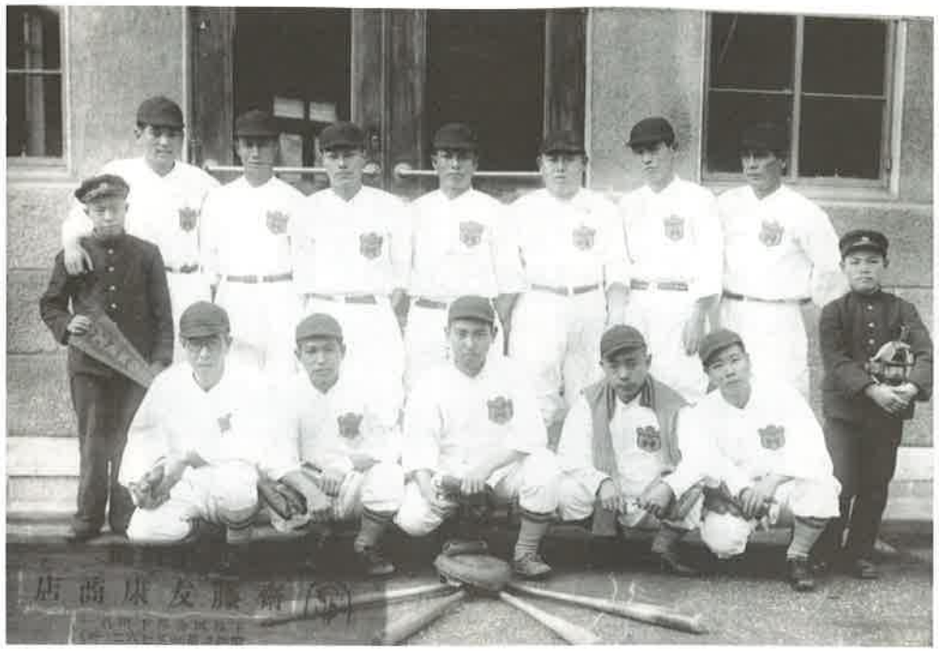
修学旅行



昭和15年3月　土洲橋から郵船倉庫方面

国策により中小の運送店が統合され第一合同運輸株式会社が設立されました

戦前の箱崎野球チーム



戦後の箱崎野球チーム

はーて、誰かな？

三井倉庫

あとがき

昔のことは、既に故人となられた方がいるので、聞く由もないから、せいぜい太平洋戦争前ぐらいなら、健在の方がいらっしゃるので、その時代に焦点を当てて地図作りが始まりました。

先ず、箱崎町の原図を区から取り寄せ、拡大して張り合わせ、畳半分ぐらいの大きさの空欄地図を作って、聞き取りしながら空欄を埋めて完成させようとの企図でした。ひとり一人回って聞き取るのも困難なので、主だった人を集めて、聞き取るのがてっとり早いと、何回か会合を重ねてきました。ここで記憶の正しさが問われました。一か所で「ここは○○さんだった」「いや、△△さんだよ、○○さんは◇◇のとなりだよ」とか「ここは誰だったかなぁ」という事が度々でありましたが、それも何回かの会合で思い出を紡ぎ合い、徐々に空欄が埋まってきました。更に、ある程度空欄が埋まった地図をまたもや主だった人々に渡して、不足部分を書き入れてもらったり、確認してもらいました。七十年位前の記憶が、よくも甦ったものだと驚いています。箱崎住人が健康であるとの証です。

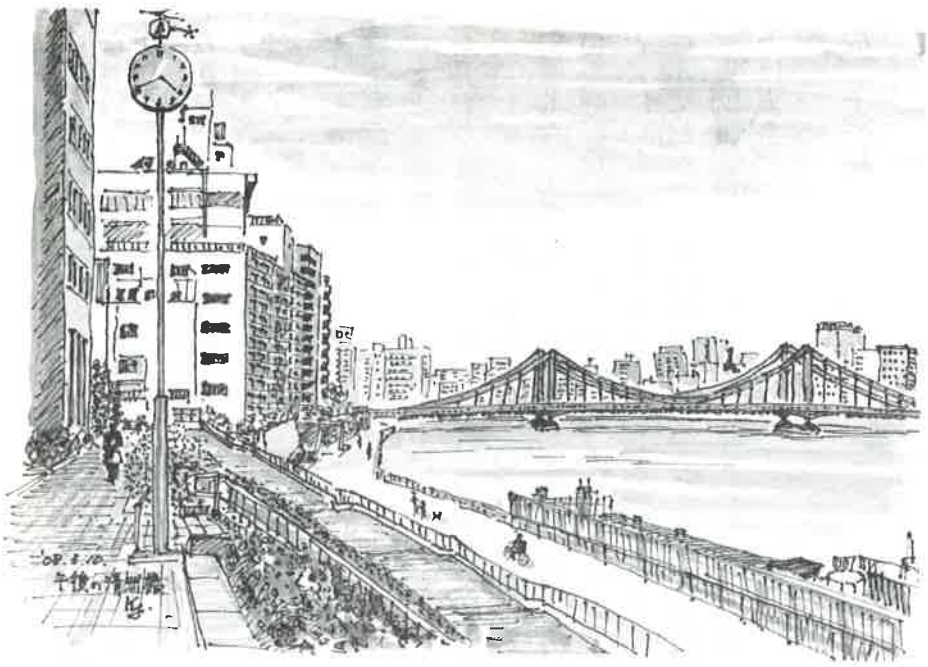
長い月日がかかりましたが、ここに太平洋戦争前の『箱崎地区』の地図が完成し、冊子として発刊の運びとなりました。ついでにこの際だからというので、箱崎にまつわる話、思い出話、また参考になればと箱崎の歴史なども加え添付しました。古地図で字が小さくて読めない箇所は、手書きで書いてあります。

記憶を呼び戻し、その当時の友達の顔まで思い出しながら、この地図作成にお力添えをして下さった方々に感謝しますと共に、多くの資料を提供して下さった方々にも感謝いたします。ありがとうございました。

【住んで良かった箱崎町】【街も企業も伸びる箱崎】を提唱して、箱崎環境対策協議会（箱崎三ケ町・正副町会長会議）機関紙『はこざき新聞』は、これからも地域の皆さんと一緒に、活動を続けて行きたいので、よろしくお願い申し上げます。

平成二十一年十二月吉日

箱崎環境対策協議会・『はこざき新聞』編集部



平成二十一年十二月
東京・日本橋「偲ぶ、箱崎町」
発行所
中央区日本橋箱崎町三十四番八号
箱崎町箱崎四丁目町会事務所内
箱崎環境対策協議会『はこざき新聞』
電話（三六六七）五六六七